

北陸大学学術フロンティア ー健康障害の分子機構解明を基盤とした予防薬学研究ー

北陸大学学術フロンティア研究組織

共同研究推進班

澤西 啓之

鍛冶 利幸

渡辺 和人

北陸大学学術フロンティア事業「健康障害の分子機構解明を基盤とした予防薬学研究」が最終年度を迎えるにあたり、「中間評価において指摘された事項を改善しつつ、高い評価を受けた北陸大学学術フロンティアの活動をさらに活発に発展させる」ことを方針とし、「動脈硬化、糖尿病および痴呆に焦点をあて、その予防と健康増進に関する薬学研究を発展させ、生活習慣や環境汚染物質による健康障害の分子機構を基盤とする予防薬学研究を国内および国外の研究者とともに創成・展開する拠点を形成する」（構想調書）という当初の目的の達成を目指した。今年度も学会賞受賞や科学研究費補助金採択が続き、活発な研究活動が展開された。また、特別講演会が通算50回余を数え、原著論文も総計100報を超えるに至った。平成17年度に本事業が開始されてからの学会賞受賞も14件にのぼっている。このような成果は関係研究者のご努力と本学関係者のご支援の賜物であり、心より謝意を表する。

平成17年度から平成19年度半ばまでの北陸大学学術フロンティア事業に対する「研究進捗状況報告書」では、全体として高い評価であったが、研究の質のさらなる向上と共同研究拠点としての活動強化を望むことが指摘された。そこで、学外協力研究員として北陸大学学術フロンティア研究組織に参加している客員教授・客員研究員と協力し、指摘事項に対する改善を行い、好結果を得ている。例えば、北陸大学学術フロンティア事業の中から生まれたバイオオルガノメタリクスと名付けられた有機金属化合物・錯体分子のバイオロジーの共同研究は全国的な広がりを見るに至り、北陸大学学術フロンティア研究組織は文字通りその共同研究拠点として活動している。

今日までの北陸大学学術フロンティア事業を概括すると、(1) 研究組織内・学内の共同研究が以前と比べ格段に活発になるだけでなく、学術フロンティア事業の展開にともなって学外の研究者との協力・共同が飛躍的に拡大したこと、(2) 共同研究拠点を形成する努力が不断に行われ、それが確実に成果に結びついてきたこと、(3) 支援スタッフを積極的に採用し、関係教室の若手教員や大学院生を研究プロジェクトの主要な戦力として活用・育成することに成功したこと、(4) 科学研究費補助金等の外部資金の導入が進んだこと、など優れた成果をあげてきた。その過程で、北陸大学学術フロンティア事

業は、共同研究拠点として機能することによる当該研究領域の高度化に貢献するだけでなく、北陸大学の研究活動の活性化に寄与し、それらの推進力としての若手研究者を育成するという課題を有機的・相互作用的に展開することに成功したと考えている。

平成21年8月には、熊谷 嘉人先生（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）および内山 真伸先生（理化学研究所基幹研究所機能元素化学研究室准主任研究員）による第三者評価が実施され、「本研究プロジェクトの特筆すべき点は、得られた研究成果だけでなく、共同研究の基盤形成を涵養した点である」「本研究プロジェクトでは、以前より北陸大学グループによって培われてきた研究の継承・発展に加えて、全く新たな挑戦的研究がプロジェクトに大きな多様性をもたらしていることを特記したい」など、高い総合所見をいただいた。これを踏まえて、9月には「平成17年度～平成21年度私立大学学術研究高度化推進事業（学術フロンティア事業）研究成果報告書概要」を文部科学省に提出したところである。平成22年3月末日の事業完了に向けて、北陸大学学術フロンティア事業は順調に進行している。

平成21年12月1日現在の研究組織は以下の通りである。

●研究者

澤西 啓之 特任教授：	代表、共同研究の推進と統括
鍛冶 利幸 教授（環境健康学）：	副代表、重金属毒性に関する予防薬学研究の展開・推進班（総務担当）
渡辺 和人 教授（衛生化学）：	乱用薬物に関する予防薬学研究の展開・推進班（学術集会担当）
古林伸二郎 教授（臨床薬理学）：	糖尿病合併症に関する予防薬学研究の展開
千葉 賢三 准教授（生化学）：	認知症に関する予防薬学研究の展開
山本 千夏 准教授（環境健康学）：	動脈硬化に関する予防薬学研究の展開
劉 園英 准教授（東洋医薬学）：	東洋医薬学を基盤とする予防薬学研究の展開
安池 修之 准教授（創薬科学）：	重金属毒性に関する予防薬学研究展開の支援
鈴木 宏一 助教（創薬科学）：	生活習慣病に関する予防薬学研究展開の支援

●協力研究者

理化学研究所 基幹研究所 機能元素化学研究室

内山 真伸 准主任研究員	有機金属化学からのプロジェクト全般
北陸大学客員教授	への支援

●ポストドクトラルフェロー

廣岡 孝志 博士：

新開 泰弘 博士：

李 代偉 博士：

劉 青原 博士：

ニヴェディタ・チャッタリジェ 博士：

メチル水銀の毒性発現メカニズムの解析
血管細胞機能障害に対する防御応答シ
ステムの解析

β -Amiloidの傷害性に対する漢方薬の
保護作用

予防薬学を指向した高機能有機金属化
合物の創製

有機金属毒性の毒性発現を担う分子標
的の解析

●研究支援者

ンシンバ・ミエジ・マリエ：

内皮線溶を制御する天然物の探索

●研究補助

柴原 由美：

本フロンティア事業に係る研究の補佐

●共同研究推進班事務補佐

尾林 栄子：

本フロンティア事業に係る事務の補佐

●事務

松本 泰一：

事務担当者

大桑 優子：

事務担当者

橋 伊勢子：

事務担当者

●客員研究員

安武 章 室長

国立水俣病総合研究センター 生化学室

藤原 泰之 准教授

愛知学院大学 薬学部 衛生薬学講座

信國 好俊 准教授

広島大学 原爆放射線医科学研究所 ゲ
ノム障害病理

中 寛史 助教

名古屋大学 物質科学国際研究センター
野依特別研究室

郡山 恵樹 講師

金沢大学大学院 医学系研究科 脳医科学
専攻 脳細胞分子学講座 脳情報分子学

平成21年度の事業

1) 特別講演会の開催

平成21年度は15件の特別講演会を開催した。概要は以下の通り。

第42回特別講演会（平成21年5月15日）世話人：鍛冶 利幸

中村 政明（国立水俣病総合研究センター・総合臨床室長）

水俣病（メチル水銀中毒）の臨床

第43回特別講演会（平成21年5月29日）世話人：鍛冶 利幸

- 千葉 百子（国際医療福祉大学 薬学部・教授）
環境と健康の接点－アラル海の縮小と付近住民の健康・経済問題－
- 第44回特別講演会（平成21年6月5日）世話人：山本 千夏
佐伯久美子（国立国際医療センター研究所・造血障害研究室室長）
ヒトES細胞およびヒトiPS細胞からの血球／血管内皮細胞の分化誘導
- 第45回特別講演会（平成21年6月26日）世話人：山本 千夏
佐藤 雅彦（愛知学院大学薬学部・教授）
トキシコゲノミクスを利用したカドミウムの毒性発現に関与する標的分子解析の試み
- 第46回特別講演会（平成21年7月1日）世話人：渡辺 和人
根岸 正彦（米国国立環境衛生研究所（NIH）博士）
フェノバルビタールによる薬物耐性の分子機構
- 第47回特別講演会（平成21年7月17日）世話人：鍛冶 利幸
芳生 秀光（摂南大学薬学部・教授）
水銀耐性遺伝子の水銀浄化・検出への利用
- 第48回特別講演会（平成21年10月23日）世話人：古林伸二郎
Nobuyoshi Hagino M.D., Ph.D. (Tulane University)
不安の認知や記憶回復と当帰芍薬散の治療効果
- 第49回特別講演会（平成21年11月19日）世話人：古林伸二郎
永井 竜児（日本女子大学 食物学科生化学・食品機能科学・講師）
メタボリックシンドローム予防にむけた新たな戦略－フマル酸によるアディポ
ネクチンの修飾について－
- 第50回特別講演会（平成21年12月4日）世話人：安池 修之
中田 和秀（法政大学自然科学センター・教授）
直線自由エネルギー関係則を利用した反応機構解明と反応設計
- 第51回特別講演会（平成22年1月15日）世話人：安池 修之
東屋 功（徳島文理大学香川薬学部・教授）
弱い分子内／分子間相互作用を利用したキラリティーの発現と制御
- 第52回特別講演会（平成22年1月22日）世話人：安池 修之
和田 昭盛（神戸薬科大学・教授）
核内受容体を標的とするビタミンA誘導体の合成と生物活性
- 第53回特別講演会（平成22年1月29日）世話人：安池 修之
中 寛史（名古屋大学物質科学国際研究センター・助教）
分子触媒に基づく自在変換化学
- 第54回特別講演会（平成22年1月29日）世話人：鍛冶 利幸
神戸 大朋（京都大学大学院生命科学研究科・准教授）
ZIPとZnT ～亜鉛の生理機能を統御する亜鉛トランスポーター～
- 第55回特別講演会（平成22年2月5日）世話人：山本 千夏

西塚 誠（名古屋市立大学大学院薬学研究科分子生物薬学・講師）

脂肪細胞分化初期に発現が増加する新規遺伝子fad104の多彩な機能

第56回特別講演会（平成22年2月5日）世話人：山本 千夏

石井伊都子（千葉大学大学院薬学研究院病院薬学研究室・准教授）

食餌性高コレステロール血症マウスにおける血液脳関門（BBB）透過性の変化

2）サテライトミーティングの開催

北陸大学学術フロンティア研究組織では、独自の取り組みとして、最新の研究情報を交換し本事業に役立てるだけでなく総合討論を通じて、北陸大学を拠点とする共同研究の基盤を形成することを目的としてサテライトミーティングを開催している。平成17年度は2件、平成18年度は3件、平成19年度は2件の開催の他に公開シンポジウム1件、平成20年度は2件を開催した。平成21年度は、2月にメチル水銀の毒性研究に関するものとバイオオルガノメタリクスに関するものの2件の開催を予定している。

3）北陸大学学術フロンティア年次研究集会

北陸大学学術フロンティア事業では、研究組織の成果発表の場のみならず北陸大学薬学部の研究の活性化に寄与することを目的として、毎年3月に年次研究集会を開催している。平成20年度の年次研究集会は、「生命科学・物質科学を拓くケミストリー」をテーマに例年通り2日間の日程で開催した。

平成20年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会

日 時：平成21年3月10日（火）～ 11日（水）

場 所：北陸大学薬学部アネックスファーム201A講義室他

テ ー マ：生命科学・物質科学を拓くケミストリー

主 催：北陸大学学術フロンティア研究組織（代表：澤西 啓之）

協 賛：（社）日本薬学会

3月10日（火）

教育講演

レチノイド：ケミカルバイオロジーから創薬へ

影近 弘之（東京医歯大院）

特別講演 1

たんぱく質表面の機能を制御する有機分子の創製

大神田淳子（阪大産業科学研）

特別講演 2

ユビキタス元素を用いる錯体化学，合成化学，物質科学

内山 真伸（理研）

3月11日（水）

成果発表講演

光学活性有機アンチモン化合物の創製と不斉配位子能

安池 修之（北陸大フロンティア）

Genipin誘導体の神経突起誘導作用に関する構造活性相関

鈴木 宏一（北陸大フロンティア）

一般講演

アルミニウムアート塩基の設計と機能

中 寛史（名大物国セ）

鉄輸送システムに及ぼすカドミウム妊娠期曝露の影響

藤原 泰之（愛知学院大薬）

無機水銀の神経毒性作用に関する研究

安武 章（国立水保研）

無機ヒ素感受性関連遺伝子群解明への細胞機能遺伝学的アプローチ

信國 好俊（広島大原医研）

血管内皮細胞においてカドミウムに対する毒性防御機構を担うNrf2/Keap1システム

新開 泰弘（北陸大フロンティア）

A β -40によって誘発される酸化ストレス障害に対する抑肝散の防護効果

劉 園英（北陸大フロンティア）

トロンボスポンジン-1による血管内皮細胞プロテオグリカンの代謝調節

山本 千夏（北陸大フロンティア）

ストレプトゾトシン糖尿病マウスの血糖降下に対する粉防已成分fangchinolineの効果と黄耆成分formononetinの複合作用

野村 政明（北陸大薬）

Genipinの神経栄養因子作用：Neuro2a細胞に対する遺伝子発現調節の網羅的解析

千葉 賢三（北陸大フロンティア）

大麻草成分、カンナビジオールをリード化合物とした選択的15-リボキシゲナーゼ阻害薬の創製

竹田 修三（北陸大フロンティア）

学術フロンティア成果発表会はフロンティア事業において義務付けされた事項であるが、それを日本薬学会の協賛のもとで学部全体の研究活性化の場として活用するという例は北陸大学学術フロンティア独自のものである。平成20年度は教育講演1題，特別講演2題，成果発表講演2題，一般講演10題，ポスター発表43題の発表が2日にわたって行われ，盛大な学術集会となった。平成21年度の年次研究集会については企画を調整中である。

4) 北陸大学学術フロンティアホームページ

ホームページは、本学フロンティア事業の情報発信の場としてきわめて重要である。平成18年度から開始された写真付き「活動報告最新情報」の逐次的公開を引き続き行った。また、研究組織の拡充や研究成果についても、迅速に公開した。尾林事務補佐が更新業務を担当している。

5) 支援スタッフの充実

支援スタッフの充実による研究の推進力増強と若手研究者の育成は、学術フロンティア推進事業の重要な課題である。平成21年度はNivedita Chatterjee博士（中国地質大学より）をPDとして採用し、郡山 恵樹博士（金沢大学大学院医学系研究科講師）を客員研究員として新たに登録した。また、これまで客員研究員として北陸大学学術フロンティア事業にご貢献いただいた内山 真伸 先生については、平成21年度に本学客員教授に就任されたが、引き続き協力研究者としてご協力をいただくことになった。内山先生は、4月に本学客員教授として文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞された。

6) 副次的効果等

北陸大学学術フロンティア事業が開始された平成17年以降の学会賞受賞者は以下の通りである。

平成17年度

山本 千夏	日本薬学会環境・衛生部会賞「動脈硬化の進展メカニズムと防御に関する衛生薬学的研究」
-------	---

平成19年度

周尾 卓也	Young Investigator Award「脳特異的プロテオグリカン、ニューログリカンCの細胞外領域切り出し機構の解析」
小西 智子	日本薬学会生物系薬学部会第8回Pharmaco-Hematologyシンポジウム大学院生優秀演題賞「血管内皮細胞のヘパラン硫酸プロテオグリカンの合成を促進する有機アンチモン化合物」
寺田奈緒子	日本薬学会生物系薬学部会第8回Pharmaco-Hematologyシンポジウム大学院生優秀演題賞「トロンボスポンジン-1による血管内皮細胞プロテオグリカンの代謝調節」
秦 薇薇	日本薬学会北陸支部大学院優秀発表賞「Triarylantimony Diacetates as Pseudo-Halides in Base-Free Cross-Coupling Reaction with Organic Boron Reagents」
廣岡 孝志	メタロチオネインおよびメタロバイオサイエンス研究会2007優秀ポスター賞「メチル水銀は傷害した培養脳微小血管内皮細胞層の修復をFGF-2システムの抑制を通じて阻害する」

劉 園英 日本東洋医学会北陸支部奨励賞「 β -Amyloid蛋白による神経細胞死における当帰芍薬散の制御作用に関する研究」

小西 智子 日本薬学会環境・衛生部会フォーラム2007実行委員長賞「血管内皮細胞においてヘパラン硫酸プロテオグリカンの大型分子種パールカンの合成を誘導する有機アンチモン化合物」

平成20年度

新開 泰弘 第35回日本トキシコロジー学会学術年会優秀研究発表賞「カドミウムの毒性防御の細胞応答システムを担う転写因子Nrf2」

新開 泰弘 第27回チョークトーク“生体と金属・化学物質に関する研究会”櫻井賞「カドミウムに対する血管内皮細胞の防御応答を担うNrf2/Keap1システム」

杜 可 フォーラム2008 衛生薬学・環境トキシコロジーフォーラム2008 実行委員長賞「メチル水銀投与ラット脳の病理組織学的変化：小脳障害のメカニズムに関する新しい仮説」

宮内 靖世 フォーラム2008 衛生薬学・環境トキシコロジーフォーラム2008 実行委員長賞「血管内皮細胞に対するカドミウムの細胞毒性を担うメカニズムとしてのFGF-2システム」

新開 泰弘 Most Impressive Poster Presentation Award「The Nrf2/Keap1 system as a defense mechanism against cadmium toxicity in vascular endothelial cells」

平成21年度

廣岡 孝志 第36回日本トキシコロジー学会学術年会優秀研究発表賞「メチル水銀による小脳障害のメカニズムに関する新しい仮説」

北陸大学学術フロンティア研究組織は、科学研究費補助金などの競争的研究資金に積極的に応募し獲得する活動を進めている。北陸大学学術フロンティア研究組織の発足以降に申請・採択された競争的研究資金は以下の通りである。

1. 研究課題：超原子価結合を持つ有機アンチモン化合物の合成とその有機合成試薬としての活用

研究代表者：栗田 城治（共同研究者：安池 修之）

研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）

研究期間：平成17年度～平成19年度

2. 研究課題：メチル水銀の神経毒性発現における標的としてのプロテオグリカン代謝異常

研究代表者：鍛冶 利幸

研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（B）
研究期間：平成18年度～平成21年度

3. 研究課題：アディポネクチンによる血管平滑筋細胞プロテオグリカン代謝の制御
研究代表者：山本 千夏
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）
研究期間：平成18年度～平成19年度

4. 研究課題：無機ヒ素による血管細胞機能障害の分子メカニズム
研究代表者：藤原 泰之
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）
研究期間：平成18年度～平成20年度

5. 研究課題：大麻吸煙抽出物中の変異原性物質に関する研究
研究代表者：舟橋 達也（共同研究者：渡辺 和人）
財団法人日本科学協会平成18年度笹川科学研究助成

6. 研究課題：フェロセン骨格から成る新規アンチモン化合物の合成とその触媒配位子能
研究代表者：秦 薇薇（共同研究者：安池 修之）
財団法人日本科学協会平成18年度笹川科学研究助成

7. 研究課題：メチル水銀の神経毒性発現に関与する脳浮腫発生の分子機構
研究代表者：廣岡 孝志
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）
研究期間：平成19年度～平成20年度

8. 研究課題：漢方薬の作用原理に基づく副作用がない糖尿病治療薬の探索
研究代表者：古林伸二郎
平成19年度（独）科学技術振興機構地域イノベーション創出総合支援事業・重点地域研究開発推進プログラム「シーズ発掘試験」
研究期間：平成19年7月～平成20年3月

9. 研究課題：主要カンナビノイドの代謝的相互作用を介した毒性発現の分子機構
研究代表者：渡辺 和人
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）
研究期間：平成20年度～平成22年度

10. 研究課題：高原子価アンチモン及びビスマスからなる有機合成試薬の開発とその創薬科学への応用
研究代表者：栗田 城治（共同研究者：安池 修之）
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）
研究期間：平成20年度～平成22年度
11. 研究課題：メチル水銀による中枢神経障害の発現機構の解明に向けた，細胞外環境分子の解析
研究代表者：周尾 卓也（共同研究者：鍛冶 利幸）
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）
研究期間：平成20年度～平成21年度
12. 研究課題：骨輸送担体を用いた新規慢性関節リウマチ治療薬の開発
研究代表者：高橋 達雄（共同研究者：古林伸二郎）
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）
研究期間：平成20年度～平成21年度
13. 研究課題：カドミウムの血管毒性防御の分子機構を担う転写因子Nrf2
研究代表者：新開 泰弘
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）
研究期間：平成20年度～平成21年度
14. 研究課題：大麻主成分の臨床適正使用に向けた予防薬学的基礎研究
研究代表者：竹田 修三
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）
研究期間：平成20年度～平成21年度
15. 研究課題：メチル水銀による小脳障害メカニズム「炎症仮説」の分子基盤
研究代表者：廣岡 孝志
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）
研究期間：平成21年度～平成22年度
16. 研究課題：主要フィトカンナビノイドによるヒトCYP1A1遺伝子の発現誘導機構の解明
研究代表者：山折 大（共同研究者：渡辺 和人）
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）
研究期間：平成21年度～平成22年度

17. 研究課題：In Vitro 発がんプロモーション簡易システムを用いた細胞形質転換因子およびメカニズムの解明

研究代表者：野村 政明（共同研究者：古林伸二郎）

平成21年度北国がん基金研究活動助成（100万円）

7) その他

市民への研究成果の還元は重要である。平成21年度は、北陸大学DANTOTSU薬立・健康セミナー2009 in TOYAMA 「治療から養生へ～薬都とやまへの提言～」市民健康公開講座（北陸大学主催、北日本新聞共催）において、鍛冶 利幸 教授が「環境と健康－環境と健康の接点」と題して講演した（7月11日）。また、「しんきんビジネスフェア：北陸ビジネス街道2009」（10月23日）において、澤西 啓之 代表らが北陸大学学術フロンティアの紹介を行った。

本研究プロジェクトの終了年度を迎えて

今年度は、本研究プロジェクト期間の最終年となった。今年度は、中間評価の結果を踏まえて改善を進めること、共同研究の拠点としての活動に一層取り組むこと、若手研究者の育成を積極的に行うことなどを年度目標として活動を展開した。さらに、9月末に平成17年度～21年度の研究報告書概要を作成し文部科学省に提出した。下記の研究業績で示すように、平成21年12月現在、この研究期間内での共同研究者9名による原著論文数は105報、総説論文は9報公表され、学会発表も活発に行っているため、組織規模から考えると良い成果が得られていると考えている。

研究業績（平成17年度からの累積）

1 総説

1. The biological effects of depolymerized sodium spirulan and sulfated colominic acid on vascular cells are beneficial in preventing atherosclerosis, Chika Yamamoto, Yasuyuki Fujiwara, Toshiyuki Kaji, *J. Health Sci.*, 52, 205–210 (2006)
2. 大麻文化科学考（その17）—乱用薬物防止教育—, 渡辺 和人, 木村 敏行, 舟橋 達也, 山折 大, 山本 郁男*, *北陸大学紀要*, 30, 13–21 (2006) (*九州保福大・薬)
3. 大麻文化科学考（その18）—ヒトにおける大麻主成分カンナビノイドの代謝—, 渡辺 和人, 木村 敏行, 山折 大, 竹田 修三, 宇佐見 則行*, 山本 郁男*, *北陸大学紀要*, 31, 1–11 (2007) (*九州保福大・薬)

4. Targeted drug delivery to bone; pharmacokinetic and pharmacological properties of acidic oligopeptide-tagged drugs, Tatsuo Takahashi-Nishioka, Koichi Yokogawa*, Shunji Tomatsu**, Masaaki Nomura, Shinjiro Kobayashi, Ken-ichi Miyamoto*, *Curr. Drug Discov. Technol.*, **5**, 39–48 (2008) (*金沢大・病院薬, **セントルイス大・小児科)
5. 大麻文化科学考 (その19) —カンナビノイド生合成経路—再考—, 渡辺 和人, 木村 敏行, 山折 大, 竹田 修三, 宇佐見 則行*, 山本 郁男*, *北陸大学紀要*, **32**, 1–11 (2008) (*九州保福大・薬)
6. 動脈硬化進展の鍵分子プロテオグリカン：その特性および合成調節, 浦野 晶子, 山本 千夏, 藤原 泰之*, 鍛冶 利幸, *薬学雑誌*, **128**, 365–375 (2008) (*愛知学院大・薬)
7. 血管内皮細胞のプロテオグリカン代謝の制御を介した外来性糖鎖の活性, 佐藤 友子, 山本 千夏, 藤原 泰之*, 鍛冶 利幸, *薬学雑誌*, **128**, 717–723 (2008) (*愛知学院大・薬)
8. 中国医学の食養生, 劉 園英, *東アジアの窓*, **2**, 34–42 (2008)
9. 大麻文化科学考 (その20) —大麻に関する諸外国の法規制—渡辺 和人, 山折 大, 木村 敏行, 山本 郁男*, *北陸大学紀要*, 第33号, 1–9 (2009) (*九州保福大・薬)

2 学術論文

1. Correlation between neuritogenic action of nitric oxide and the rate of nitric oxide production in PC12h cells, Kenzo Chiba, Matsumi Yamazaki, *J. Health Sci.*, **51**, 683–686 (2005)
2. An organobismuth compound that exhibits cytotoxicity selectively to vascular endothelial cells *in vitro*, Yasuyuki Fujiwara, Makoto Mitani, Shuji Yasuike, Jyoji Kurita, Toshiyuki Kaji, *J. Health Sci.*, **51**, 333–340 (2005)
3. Sodium arsenite inhibits proteoglycan synthesis by vascular endothelial cells in culture, Yasuyuki Fujiwara, Yusuke Nakase, Toshiyuki Kaji, *J. Health Sci.*, **51**, 461–468 (2005)
4. Proteoglycan synthesis is not influenced by zinc in proliferating bovine aortic

- endothelial cells in culture, Yasuyuki Fujiwara, Anna H. Plaas*, Toshiyuki Kaji, *J. Health Sci.*, **51**, 720–727 (2005) (*南フロリダ大・医)
5. *In vitro* inhibitory effects of cannabinoids on progesterone 17 α -hydroxylase activity in rat testis microsomes, Tatsuya Funahashi, Hideharu Ikeuchi, Satoshi Yamaori, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto*, Kazuhito Watanabe, *J. Health Sci.*, **51**, 369–375 (2005) (*九州保福大・薬)
 6. Stimulatory effects of testosterone and progesterone on the NADH- and NADPH-dependent oxidation of 7 β -hydroxy- Δ^8 -tetrahydrocannabinol to 7-oxo- Δ^8 -tetrahydrocannabinol in monkey liver microsomes, Tatsuya Funahashi, Yuuki Tanaka, Satoshi Yamaori, Toshiyuki Kimura, Tamihide Matsunaga*, Shigeru Ohmori*, Takashi Kageyama**, Ikuo Yamamoto***, Kazuhito Watanabe, *Drug Metab. Pharmacokinet.*, **20**, 358–367 (2005) (*信州大・病院薬, **京都大・霊長研, ***九州保福大・薬)
 7. Inhibitory effect of nifedipine on tumor necrosis factor α -induced neovascularization in cultured choroidal explant of streptozotocin-diabetic rat, Shinjiro Kobayashi, Mizuki Fukuta, Miho Suzuki, Hiroshi Tsuneki*, Ikuko Kimura*, *Biol. Pharm. Bull.*, **28**, 242–246 (2005) (*富山医薬大・薬)
 8. Effective NADH-dependent oxidation of 7 β -hydroxy- Δ^8 -tetrahydrocannabinol to the corresponding ketone by Japanese monkey hepatic microsomes, Tamihide Matsunaga*, Shinsuke Higuchi, Kazuhito Watanabe, Takashi Kageyama**, Shigeru Ohmori*, Ikuo Yamamoto***, *Biol. Pharm. Bull.*, **28**, 646–651 (2005) (*信州大・病院薬, **京都大・霊長研, ***九州保福大・薬)
 9. Synthesis of N^3 -substituted uridine and related pyrimidine nucleosides and their antinociceptive effects in mice, Tomomi Shimizu, Toshiyuki Kimura, Tatsuya Funahashi, Kazuhito Watanabe, Ing Kang Ho*, Ikuo Yamamoto**, *Chem. Pharm. Bull.*, **53**, 313–318 (2005) (*ミシシッピ大, **九州保福大・薬)
 10. Displacement of opioid receptor binding ligands from the rat brain by N^3 -(2',5'-dimethoxyphenacyl) arabinofuranosyluracil, Tomomi Shimizu, Toshiyuki Kimura, Tatsuya Funahashi, Kazuhito Watanabe, Ing Kang Ho*, Ikuo Yamamoto**, *Res. Commun. Mol. Path. Pharmacol.*, **117/118**, 105–113 (2005) (*ミシシッピ大, **九州保福大・薬)

11. Synthesis of (3*S*,5*R*) -3,5-diaminoazepan-2-one as a conformationally restricted surrogate of Dab-Gly dipeptide, Ken-ichi Tanaka, Harumitsu Nemoto, Hiroyuki Sawanishi, *Tetrahedron: Asymmetry*, **16**, 1989 – 1995 (2005)
12. Synthesis of (3*S*,5*S*) -3,5-diaminopiperidin-2-one as a conformationally restricted surrogate of Dab-Gly dipeptide, Ken-ichi Tanaka, Harumitsu Nemoto, Hiroyuki Sawanishi, *Tetrahedron: Asymmetry*, **16**, 809 – 815 (2005)
13. Antiangiogenic activity of beta-eudesmol in vitro and in vivo, Hiroshi Tsuneki*, En-Long Ma*, Shinjiro Kobayashi, Naoto Sekizaki*, Toshiyasu Sasaoka*, Min-Wei Wang*, Ikuko Kimura*, *Eur. J. Pharmacol.*, **512**, 105 – 115 (2005) (*富山医薬大・薬)
14. Stereospecific and regioselective hydrolysis of cannabinoid esters by ES46.5K, an esterase from mouse hepatic microsomes, and its differences from carboxylesterases of rabbit and porcine liver, Kazuhito Watanabe, Tamihide Matsunaga*, Toshiyuki Kimura, Tatsuya Funahashi, Satoshi Yamaori, Yukihiro Shoyama**, Ikuo Yamamoto***, *Biol. Pharm. Bull.*, **28**, 1743 – 1747 (2005) (*信州大・病院薬, **九州大院・薬, ***九州保福大・薬)
15. Marijuana extracts possess the effects like the endocrine disrupting chemicals, Kazuhito Watanabe, Erina Motoya, Naoki Matsuzawa, Tatsuya Funahashi, Toshiyuki Kimura, Tamihide Matsunaga*, Koji Arizono**, Ikuo Yamamoto***, *Toxicology*, **206**, 471 – 478 (2005) (*信州大・病院薬, **熊本大, ***九州保福大・薬)
16. Proteoglycans predominantly synthesized by human brain microvascular endothelial cells in culture are perlecan and biglycan, Chika Yamamoto, Xingyun Deng, Yasuyuki Fujiwara, Toshiyuki Kaji, *J. Health Sci.*, **51**, 576 – 583 (2005)
17. Proteoglycans released from cultured vascular endothelial cell layers by sodium spirulan are both perlecan and biglycan, Chika Yamamoto, Satomi Shimada, Yasuyuki Fujiwara, Jung-Bum Lee*, Toshimitsu Hayashi*, Toshiyuki Kaji, *Biol. Pharm. Bull.*, **28**, 32 – 36 (2005) (*富山大・薬)
18. Selective promotion of plasminogen activator inhibitor-1 secretion by activation

- of protease-activated receptor-1 in cultured human brain microvascular pericytes: comparison with endothelial cells, Chika Yamamoto, Minako Sugato, Yasuyuki Fujiwara, Toshiyuki Kaji, *Biol. Pharm. Bull.*, **28**, 208–211 (2005)
19. Induction of synthesis of a large heparan sulfate proteoglycan, perlecan, by thrombin in cultured human coronary smooth muscle cells, Chika Yamamoto, Takako Wakata, Yasuyuki Fujiwara, Toshiyuki Kaji, *Biochim. Biophys. Acta*, **1722**, 92–102 (2005)
 20. Inhibition of cultured bovine aortic smooth muscle cell proliferation by colominic acid, Chika Yamamoto, Shinya Yamaguchi*, Toshimitsu Hayashi**, Toshiyuki Kaji, *Biol. Pharm. Bull.*, **28**, 994–997 (2005) (*マルキンバイオ, **富山大・薬)
 21. Hepatic metabolism of methyl anthranilate and methyl *N*-methylantranilate as food flavoring agents in relation to allergenicity in the guinea pig, Satoshi Yamaori, Hisayo Yokozuka, Aya Sasama, Tatsuya Funahashi, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto*, Kazuhito Watanabe, *J. Health Sci.*, **51**, 667–675 (2005) (*九州保福大・薬)
 22. Neurotrophic effects of genipin on Neuro2a cells, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, *J. Health Sci.*, **51**, 687–692 (2005)
 23. Fundamental role of nitric oxide in neuritogenesis of PC12h cells, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, Tetsuro Mohri, *Br. J. Pharmacol.*, **146**, 662–669 (2005)
 24. Catalytic action of triarylstibanes: oxidation of benzoin into benzyls using triarylstibanes under an aerobic condition, Shuji Yasuike, Yoshihito Kishi, Shin-ichiro Kawara, Jyoji Kurita, *Chem. Pharm. Bull.*, **53**, 425–427 (2005)
 25. Synthesis of JOSIPHOS-type ligands via a diastereoselective three-component reaction and their application in asymmetric rhodium-catalyzed hydroborations, Shuji Yasuike, Christiane C. Kofink*, Ralf J. Klotzinger*, Nina Gommermann*, Katja Tappe*, Andrei Gavryushin*, Paul Knochel*, *Tetrahedron: Asymmetry*, **16**, 3385–3393 (2005) (*ミュンヘン大・化学)
 26. Identification and determination of cannabinoids in both commercially available and cannabis oils stored long term, Mamoru Yotoryama*, Eiji Ishiharajima*,

- Yoko Kato*, Akiko Nagato*, Setsuko Sekita**, Kazuhito Watanabe, Ikuo Yamamoto***, *J. Health Sci.*, **51**, 483–487 (2005) (*栃木県警・科警研, **医薬品食品衛生研, ***九州保福大・薬)
27. Neuritogenesis of herbal geniposide-related compounds in PC12h cells, Kenzo Chiba, Matsumi Yamazaki, Masafumi Kikuchi*, Koichi Machida*, Masao Kikuchi* *J. Health Sci.*, **52**, 743–747 (2006) (*東北薬科大)
28. Identification and functions of chondroitin sulfate in the milieu of neural stem cells, Michiru Ida*, Takuya Shuo, Kanako Hirano*, Yoshihito Tokita*, Keiko Nakanishi*, Fumiko Matsui*, Sachiko Aono*, Hiroshi Fujita**, Yasuyuki Fujiwara, Toshiyuki Kaji, Atsuhiko Oohira*, *J. Biol. Chem.*, **281**, 5982–5991 (2006) (*愛知県コロニー研, **生化学工業)
29. The vascular endothelial growth factor VEGF165 induces perlecan synthesis via VEGF receptor-2 in cultured human brain microvascular endothelial cells, Toshiyuki Kaji, Chika Yamamoto, Mami Oh-i, Yasuyuki Fujiwara, Yasuo Yamazaki*, Takashi Morita*, Anna H Plaas**, Thomas N. Wight***, *Biochim. Biophys. Acta*, **1760**, 1465–1474 (2006) (*明治薬大・薬, **南フロリダ大・医, ***ホープハート研)
30. Hypervalent organoantimony compounds 12-ethynyl-tetrahydrodibenz [c,f][1,5] azastibocines: Highly efficient new transmetallating agent for organic halides, Naoki Kakusawa, Yoshinori Tobiyasu, Shuji Yasuike, Kentaro Yamaguchi*, Hiroko Seki**, Jyoji Kurita, *J. Organomet. Chem.*, **691**, 2953–2968 (2006) (*徳島文理大香川・薬, **千葉大・分セ)
31. Comparison of the effects of percutaneous and intraduodenal administration of oxybutynin on bladder contraction and salivation in rabbits, Hitoshi Kontani, Tetsukazu Hamamoto*, Sunao Takeuchi*, Yukari Nomura, Hiroyuki Sawanishi, Haruo Saito*, *Int. J. Urology*, **13**, 977–984 (2006) (*リードケミカル・研)
32. Characterization of an immortalized hepatic stellate cell line established from metallothionein-null mice, Nobuhiko Miura*, Yoshitaka Kanayama**, Wakako Nagai**, Tatsuya Hasegawa***, Yoshiyuki Seko***, Toshiyuki Kaji, Akira Naganuma**, *J. Toxicol. Sci.*, **31**, 391–398 (2006) (*産医研, **東北大院・薬, ***山梨環境研)

33. Neuroprotective and neurotrophic effects of Korean Gardenia jasminoides Ellis in PC12h cells, Kum Ju Park^{*}, Hyo-Cheol Ha^{*}, Hyun-Su Kim^{**}, Kenzo Chiba, Ik-Hyun Yeo^{*}, Sang-Yun Lee^{*}, *Food Sci., Biotechnol.*, **15**, 735–738 (2006) (*ブルムウオン機能研, ** 建國大)
34. Effects of 1-benzylxanthines on cyclic AMP phosphodiesterase 4 isoenzyme, Hirokazu Suzuki, Hiroyuki Sawanishi, Masaaki Nomura, Tsutomu Shimada^{*}, Kenichi Miyamoto^{*}, *Biol. Pharm. Bull.*, **29**, 131–134 (2006) (*金沢大・病院薬)
35. A stereocontrolled formal asymmetric synthesis of pseudodistomin C, Kenichi Tanaka, Takuya Maesoba, Hiroyuki Sawanishi, *Heterocycles*, **68**, 183–192 (2006)
36. 8-Hydroxycannabinol, a new metabolite of cannabinol formed by human hepatic microsomes, Kazuhito Watanabe, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto^{*}, *Forensic Toxicol.*, **24**, 80–82 (2006) (*九州保福大・薬)
37. Colominic acid inhibits the proliferation of cultured bovine aortic endothelial cells and injuries their monolayers: cell density-dependent effects prevented by sulfation, Chika Yamamoto, Yuki Morita, Shinya Yamaguchi^{*}, Toshimitu Hayashi^{**}, Toshiyuki Kaji, *Life Sci.*, **78**, 844–850 (2006) (*マルキンバイオ, **富山大院・薬)
38. Involvement of human blood arylesterases and liver microsomal carboxylesterases in nafamostat hydrolysis, Satoshi Yamaori, Nobuhiro Fujiyama, Mika Kushihara, Tatsuya Funahashi, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto^{*}, Tomomichi Sone^{**}, Masakazu Isobe^{**}, Tohru Ohshima^{***}, Kenji Matsumura^{****}, Minoru Oda^{****}, Kazuhito Watanabe, *Drug Metab. Pharmacokinet.*, **21**, 147–155 (2006) (*九州保福大・薬, **摂南大・薬, ***金沢大・医, ****鳥居薬品)
39. Expression of functional nitric oxide synthase for neuritogenesis in PC12h cells, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, *J. Health Sci.*, **52**, 769–773 (2006)
40. Differences in neuritogenic response to nitric oxide in PC12 and PC12h cells, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, Teturo Mohri, *Neurosci. Lett.*, **393**, 222–225 (2006)

41. Synthesis of enantiomerically pure Sb-chirogenic organoantimony compounds and their crystal structures, Shuji Yasuike, Yoshihito Kishi, Shin-ichiro Kawara, Kentaro Yamaguchi*, Jyoji Kurita, *J. Organomet. Chem.*, **691**, 2213–2220 (2006) (*徳島文理大香川・薬)
42. A novel transmetallation of triarylstibanes into arylboronate: boro-induced ipso-deantimonation and its theoretical calculation, Shuji Yasuike, Kazuhide Nakata*, Weiwei Qin, Toshiyuki Kaji, Jyoji Kurita, *Chem. Lett.*, **35**, 1402–1403 (2006) (*法大・自然セ)
43. Directed ortho insertion (DoI) : a new approach to functionalized aryl and heteroaryl zinc reagents, Nadege Boudet*, Shohei Sase*, Pradipta Sinha*, Ching-Yuan Liu, Arkady Krasovskiy*, Paul Knochel*, *J. Am. Chem. Soc.*, **129**, 12358–12359 (2007) (*ミュンヘン大・化学)
44. Methylmercury retards the repair of wounded monolayer of human brain microvascular endothelial cells by inhibiting their proliferation without nonspecific cell damage, Takashi Hirooka, Yasuyuki Fujiwara*, Chika Yamamoto, Akira Yasutake**, Toshiyuki Kaji, *J. Health Sci.*, **53**, 450–456 (2007) (*愛知学院大・薬, **国立水俣研)
45. Structure-activity relationship of flavonoids for inhibition of epidermal growth factor-induced transformation of JB6 Cl 41 cells, Daisuke Ichimatsu*, Masaaki Nomura, Seiji Nakamura*, Shuzo Moritani**, Koichi Yakogawa*, Shinjiro Kobayashi, Tatsuo Nishioka, Kenichi Miyamoto*, *Mol. Carcinog.*, **46**, 436–445 (2007) (*金沢大・病院薬, **福井大・看護)
46. Protein-protein interactions between rat hepatic cytochromes P450 (P450s) and UDP-glucuronosyltransferases (UGTs) : Evidence for the Functionally active UGT in P450-UGT complex, Yuji Ishii*, Megumi Iwanaga*, Yoshio Nishimura*, Shuso Takeda, Shinichi Ikushiro**, Kiyoshi Nagata***, Yasushi Yamazoe****, Peter I. Mackenzie*****, Hideyuki Yamada*, *Drug Metab. Pharmacokin.*, **22**, 367–376 (2007) (*九州大・薬, **富山大工, ***東北薬科大, ****東北大院・薬, *****フリンダース大・医)
47. Dysfunction of Nrf2 decreases KBrO₃-induced oxidative DNA damage in Ogg1-null mice, Paweł Jałoszyński*, Soichiro Murata**, Yasuhiro Shinkai, Satoru Takahashi

^{**}, Yoshito Kumagai^{**}, Susumu Nishimura^{*}, Masayuki Yamamoto^{***}, *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **364**, 966–971 (2007) (*筑波大TARAセ, **筑波大院・人間総合科学, ***東北大院・医)

48. Overproduction of N^ε- (carboxymethyl) lysine-induced neovascularization in cultured chroidal explant of aged rat, Shinjiro Kobayashi, Masaaki Nomura, Tatsuo Nishioka, Minoru Kikuchi, Akina Ishihara, Ryoji Nagai^{*}, Nobuyoshi Hagino^{**}, *Biol. Pharm. Bull.*, **30**, 133–138 (2007) (*熊本大・医, **チューレン大・医)
49. Synthesis of functionalized o-, m-, and p-terphenyl derivatives by consecutive cross-coupling reactions of triazene-substituted arylboronic esters, Ching-Yuan Liu, Andrey Gavryushin^{*}, Paul Knochel^{*}, *Chemistry-An Asian Journal*, **2**, 1020–1030 (2007) (*ミュンヘン大・化学)
50. Preparation of polyfunctional aryl azides from aryl triazenes. A new synthesis of ellipticine, 9-methoxyellipticine, isoellipticine, and 7-carbethoxyisoellipticine, Ching-Yuan Liu, Paul Knochel^{*}, *J. Org. Chem.* **72**, 7106–7115 (2007) (*ミュンヘン大・化学)
51. Preparation of polyfunctional aryl triazenes via a direct insertion reaction of Zn in the presence of LiCl, Ching-Yuan Liu, Paul Knochel^{*}, *Synlett*, 2081–2085 (2007) (*ミュンヘン大・化学)
52. Protective effects of Toki-shakuyaku-san Tsumura Japan-23 (TJ-23) on β -amyloid protein (β 40)-induced apoptosis in pheochromocytoma-12 (PC12) cells, Yuan Ying Liu, Takanobu Kojima, *J. Health Sci.*, **53**, 196–201 (2007)
53. Combined effects of fangchinoline from *Stephania tetrandra* Radix and formononetin and calycosin from *Astragalus membranaceus* radix on hyperglycemia and hypoinsulinemia in streptozotocin-diabetic mice, Wenjie Ma, Masaaki Nomura, Tatsuo Takahashi-Nishioka, Shinjiro Kobayashi, *Biol. Pharm. Bull.*, **30**, 2079–2083 (2007)
54. Inhibition of tetrandrine on epidermal growth factor-induced cell transformation and its signal-transduction, Masaaki Nomura, Rina Yamazaki, Makiko Takaya, Minoru Kikuchi, Kiyoshi Akiyama^{*}, Noriko Akiyama^{*}, Tatsuo Takahashi-Nishioka, Syuzo Moritani^{**}, Shinjiro Kobayashi, *Anticancer Res.*, **27**, 3187–3194

- (2007) (*栗津神経サナトリウム, **福井大・看護)
55. The neuroprotective and neurotrophic effects of tremella fuciformis in PC12h cells, Kum Ju Park*, Sang-Yun Lee*, Hyun-Su Kim**, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, Hyo-Cheol Ha*, *Mycobiology*, **35**, 11–15 (2007) (*ブルムウオン機能研, **建國大)
 56. Arsenic and other metal contamination of groundwater in the mekong river delta, vietnam, Yasuhiro Shinkai, Duong Van Truc*, Daigo Sumi**, Doan Canh*, Yoshito Kumagai**, *J. Health Sci.*, **53**, 344–346 (2007) (*Institute of Tropical Biology Vietnam, **筑波大院・人間総合科学)
 57. Ectodomain shedding of neuroglycan C, a brain-specific chondroitin sulfate proteoglycan, by TIMP-2- and TIMP-3-sensitive proteolysis, Takuya Shuo, Sachiko Aono*, Keiko Nakanishi*, Yoshihito Tokita*, Yoshiyuki Kuroda*, Michiru Ida*, Fumiko Matsui*, Hiroyo Maruyama, Toshiyuki Kaji, Atsuhiko Oohira*, *J. Neurochem.*, **102**, 1561–1568 (2007) (*愛知県コロニー研)
 58. Activation of the Nrf2 pathway, but decreased gamma-glutamylcysteine synthetase heavy subunit chain levels and caspase-3-dependent apoptosis during exposure of primary mouse hepatocytes to diphenylarsinic acid, Daigo Sumi*, Aiko Manji*, Yasuhiro Shinkai, Takashi Toyama*, Yoshito Kumagai*, *Toxicol. Appl. Pharmacol.*, **223**, 218–224 (2007) (*筑波大院・人間総合科学)
 59. Characteristic properties of genipin as an activator in neuronal nitric oxide synthase. Hirokazu Suzuki, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, Hiroyuki Sawanishi, *J. Health Sci.*, **53**, 730–733 (2007)
 60. Suppression of fetal testicular cytochrome *P450 17* by maternal exposure to 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin: A mechanism involving an initial effect on gonadotropin synthesis in the pituitary, Junko Taketoh*, Junpei Mutoh**, Tomoki Takeda*, Tadashi Ogishima***, Shuso Takeda, Yuji Ishii*, Takumi Ishida*, Hideyuki Yamada*, *Life Sci.*, **80**, 1259–1267 (2007) (*九州大・薬, **九州保福大・薬, ***九州大院・理)
 61. Purpurin expression in the zebrafish retina during early development and after optic nerve lesion in adults, Masayuki Tanaka, Daisuke Murayama, Mikiko

Nagashima, Tomomi Higashi, Kazuhiro Mawatari, Toru Matsukawa*, Satoru Kato*, *Brain Res.*, **1153**, 34–42 (2007) (*金沢大院・医)

62. Cytoprotective role of Nrf2/Keap1 system in methylmercury toxicity, Takashi Toyama*, Daigo Sumi*, Yasuhiro Shinkai, Akira Yasutake**, Keiko, Taguchi***, Kit I. Tong***, Masayuki Yamamoto**, Yoshito Kumagai*, *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **363**, 645–650 (2007) (*筑波大院・人間総合科学, **国立水俣研, ***東北大院・医)
63. Coenzyme Q₁₀ prevents high glucose-induced oxidative stress in human umbilical vein endothelial cells, Hiroshi Tsuneki*, Naoto Sekizaki*, Takashi Suzuki*, Shinjiro Kobayashi, Tsutomu Wada*, Tadashi Okamoto**, Ikuko Kimura*, Toshiyasu Sasaoka*, *Eur. J. Pharmacol.*, **566**, 1–10 (2007) (*富山大・薬, **神戸学院大・薬)
64. Conversion of cannabidiol to Δ^9 -tetrahydrocannabinol and related cannabinoids in artificial gastric juice, and their pharmacological effects in mice, Kazuhito Watanabe, Yuka Itokawa, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi*, Toshiyuki Kimura, Toshiyuki Kaji, Noriyuki Usami**, Ikuo Yamamoto**, *Foren. Toxicol.*, **15**, 16–21 (2007) (*松山大・薬, **九州保福大・薬)
65. Cytochrome P450 enzymes involved in the metabolism of tetrahydrocannabinols and cannabinol by human hepatic microsomes, Kazuhito Watanabe, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi*, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto**, *Life Sci.*, **80**, 1415–1419 (2007) (*松山大・薬, **九州保福大・薬)
66. Butyrylcholinesterase and erythrocyte sulfhydryl-dependent enzyme hydrolyze gabexate in human blood, Satoshi Yamaori, Mika Kushihara, Nibuhiro Fujiyama, Tatsuya Funahashi*, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto**, Kenji Matsumura***, Minoru Oda***, Kazuhito Watanabe, *J. Health Sci.*, **53**, 60–66 (2007) (*松山大・薬, **九州保福大・薬, ***鳥居薬品)
67. Nafamostat is hydrolyzed by human liver cytosolic long-chain acyl-CoA hydrolase, Satoshi Yamaori, Eriko Ukena, Nobuyuki Fujiyama, Tatsuya Funahashi*, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto**, Tohru Ohshima***, Kenji Matsumura****, Minoru Oda****, Kazuhito Watanabe, *Xenobiotica*, **37**, 260–270 (2007) (*松山大・薬, **九州保福大・薬, ***金沢大・医, ****鳥居薬品)

68. Suzuki-type cross-coupling reaction of pentavalent triarylantimony diacetates with arylboronic acids without a base, Shuji Yasuike, Weiwei Qin, Yoshiyuki Sugawara, Jyoji Kurita, *Tetrahedron Lett.*, **48**, 721 – 724 (2007)
69. Homocysteine inhibits proteoglycan synthesis in cultured bovine aortic smooth muscle cells, Yasuyuki Fujiwara*, Chihiro Mikami, Michinori Nagai, Chika Yamamoto, Takashi Hirooka, Masahiko Satoh*, Toshiyuki Kaji, *J. Health Sci.*, **54**, 56 – 65 (2008) (*愛知学院大・薬)
70. Arsenite but not arsenate inhibits general proteoglycan synthesis in cultured arterial smooth muscle cells, Yasuyuki Fujiwara*, Chika Yamamoto, Takashi Hirooka, Naoko Terada, Masahiko Satoh*, Toshiyuki Kaji, *J. Toxicol. Sci.*, **33**, 487 – 492 (2008) (*愛知学院大・薬)
71. Proteasome affects the expression of aryl hydrocarbon receptor-regulated proteins, Takumi Ishida*, Masayo Kawakami*, Hiroko Baba*, Masanori Yahata*, Junpei Mutoh*, Shuso Takeda, Hideaki Fujita*, Yoshitaka Tanaka*, Yuji Ishii*, Hideyuki Yamada*, *Environ. Toxicol. Pharmacol.*, **26**, 348 – 354 (2008) (*九州大院・薬)
72. N^ε- (Carboxymethyl) lysine-induced choroidal angiogenic potential facilitates retinal neovascularization in advanced-diabetic rat in vitro, Shinjiro Kobayashi, Masaaki Nomura, Tatsuo Takahashi, Miho Suzuki, Ryoji Nagai*, Nobuyoshi Hagino**, *Open Pharmacol. J.*, **2**, 79 – 86 (2008) (*熊本大・医, **チュレーン大・医)
73. Properties and expression of a multidrug efflux pump AcrAB-KocC from *klebsiella pneumoniae*, Dai-wei Li, Motoyasu Ohnishi, Takanori Kishino, Taira Matsuo, Wakano Ogawa, Teruo Kuroda, Tomofusa Tsuchiya, *Biol. Pharm. Bull.*, **31**, 577 – 582 (2008)
74. Inhibitory mechanisms of flavonoids on insulin-stimulated glucose uptake in MC3T3-G2/PA6 adipose cells, Masaaki Nomura, Tatsuo Takahashi, Naoto Nagata*, Kikue Tsutsumi*, Shinjiro Kobayashi, Tetsuo Akiba*, Koichi Yokogawa*, Shuzo Moritani**, Ken-ichi Miyamoto, *Biol. Pharm. Bull.*, **31**, 1403 – 1409 (2008) (*金沢大・病院薬, **福井大・看護)

75. Inotosiol, a lanostane triterpenoid, from *inototus obliquus* inhibits cell proliferation through caspase-3 dependent apoptosis, Masaaki Nomura, Tatsuo Takahashi, Aimi Uesugi, Reiko Tanaka*, Shinjiro Kobayashi, *Anticancer Res.*, **28**, 2691–2696 (2008) (*大阪薬大)
76. Palladium-catalyzed carbonylative cross-coupling reaction of triarylantimony dicarboxylates with arylboronic acids: Synthesis of biaryl ketones, Weiwei Qin, Shuji Yasuie, Naoki Kakusawa, Jyoji Kurita, *J. Organomet. Chem.*, **693**, 2949–2953 (2008)
77. Triarylantimony dicarboxylates as pseudo-halides for palladium-catalyzed cross-coupling reaction with arylboronic acids and triarylbismuthanes without any base, Weiwei Qin, Shuji Yasuie, Naoki Kakusawa, Yoshiyuki Sugawara, Masatoshi Kawahata*, Kentaro Yamaguchi*, Jyoji Kurita, *J. Organomet. Chem.*, **693**, 109–116 (2008) (*徳島文理大香川・薬)
78. Bone-targeting of quinolones conjugated with an acidic oligopeptide, Tatsuo Takahashi, Koichi Yokogawa*, Naoki Sakura, Masaaki Nomura, Shinjiro Kobayashi, Ken-ichi Miyamoto*, *Pharm. Res.*, **25**, 2881–2888 (2008) (*金沢大・病院薬)
79. Cannabidiolic acid as a selective cyclooxygenase-2 inhibitory component in cannabis, Shuso Takeda, Koichiro Misawa, Ikuo Yamamoto*, Kazuhito Watanabe, *Drug Metab. Dispos.*, **36**, 1917–1921 (2008) (*九州保福大・薬)
80. Δ^9 -Tetrahydrocannabinol enhances MCF-7 cell proliferation via cannabinoid receptor-independent signaling, Shuso Takeda, Satoshi Yamaori, Erina Motoya, Tamihide Matsunaga*, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto**, Kazuhito Watanabe, *Toxicology*, **245**, 141–146 (2008) (*信州大医・病, **九州保福大・薬)
81. Effects of oral administration of stephania tetrandra S. moore on neovascularization of retinal and choroidal capillaries of diabetes in rats, Taiki Tsutsumi*, Nobuyoshi Hagino*, Xian-chun Liang**, Sai-shan Guo**, Shinjiro Kobayashi, *Phytother. Res.*, **22**, 591–596 (2008) (*チュレーン大・医, **中国協和医大)
82. Generation of reactive oxygen species during mouse hepatic microsomal metabolism

- of cannabidiol and cannabidiol hydroxyquinone, Noriyuki Usami*, Ikuo Yamamoto*, Kazuhito Watanabe, *Life Sci.*, **83**, 717–724 (2008) (*九州保福大・薬)
83. Adiponectin as an inducer of decorin synthesis in cultured vascular smooth muscle cells, Chika Yamamoto, Akiko Urano, Yasuyuki Fujiwara*, Toshiyuki Kaji, *Life Sci.*, **83**, 447–452 (2008) (*愛知学院大・薬)
84. Genipin exhibits neurotrophic effects through a common signaling pathway in nitric oxide synthase-expressing cells, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, *Eur. J. Pharmacol.*, **581**, 255–261 (2008)
85. Neuro2a cell death induced by 6-hydroxydopamine is attenuated by genipin, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, Keiko Satoh, *J. Health Sci.*, **54**, 638–644 (2008)
86. Cilostazole induces metallothionein expression in vascular cells, Yasuyuki Fujiwara*, Takahiro Kitagawa*, Yasuhiro Shinkai, Toshiyuki Kaji, Masahiko Satoh*, *Yakugaku Zasshi*, **129**, 1415–1422 (2009) (*愛知学院大・薬)
87. Gilman-type versus lipshutz-type reagents: competition in lithiocuprate chemistry, Joanna Haywood*, James V. Morey*, Andrew E. H. Wheatley*, Ching-Yuan Liu, Shuji Yasuike, Jyoji Kurita, Masanobu Uchiyama**, Paul R. Raithby***, *Organometallics*, **28**, 38–41 (2009) (*ケンブリッジ大, **理研, ***バース大)
88. Suppression of fibroblast growth factor-2 expression: Possible mechanism underlying the methylmercury-induced inhibition of the repair of wounded monolayers of cultured human brain microvascular endothelial cells, Takashi Hirooka, Yasuyuki Fujiwara*, Shoko Inoue, Yasuhiro Shinkai, Chika Yamamoto, Masahiko Satoh*, Akira Yasutake**, Kohmyo Eto**, Toshiyuki Kaji, *J. Toxicol. Sci.*, **34**, 433–439 (2009) (*愛知学院大・薬, **国立水俣研)
89. Rhodium-catalyzed conjugate addition of *Sb*-aryl-1,5-azastibocines to α,β -unsaturated carbonyl compounds, Naoki Kakusawa, Shuji Yasuike, Jyoji Kurita, *Heterocycles*, **77**, 1269–1283 (2009)
90. Reaction mechanism for the LiCl-Mediated directed Zinc insertion: A computational and experimental study, Ching-Yuan Liu, Xuan Wang*, Taniyuki

Furuyama^{*}, Shuji Yasuike, Atsuya Muranaka^{*}, Keiji Morokuma^{**}, Masanobu Uchiyama^{*}, *Chem. Eur. J.*, 2009, in press (*理研, **エモリー大)

91. Effect of periodic replacement of the heteroatom on the spectroscopic properties of indole and benzofuran derivatives, Atsuya Muranaka^{*}, Shuji Yasuike, Ching-Yuan Lin, Jyoji Kurita, Naoki Kakusawa, Takashi Tsuchiya, Masako Okuda^{**}, Nagao Kobayashi^{**}, Yotaro Matsumoto^{*}, Kengo Yoshida^{*}, Daisuke Hashizume^{*}, Masanobu Uchiyama^{*}, *J. Phys. Chem. A*, 113, 464–473 (2009) (*理研, **東北大・理)
92. Theoretical study on the halogen-Zinc exchange reaction using organozinc ate compounds, Shinji Nakamura^{*}, Ching-Yuan Lin, Atsuya Muranaka^{*}, Masanobu Uchiyama^{*}, *Chem. Eur. J.*, 15, 5686–5694 (selected as a VIP paper) (2009) (*理研)
93. Pentavalent organoantimony compounds as mild N-aryllating agents for amines: Cu-mediated Ullmann-type N-arylation with tetraarylantimony (V) acetates, Weiwei Qin, Naoki Kakusawa, Wu Yichen, Shuji Yasuike, Jyoji Kurita, *Chem. Pharm. Bull.*, 57, 436–438 (2009)
94. Role of aquaporin 9 in cellular accumulation of arsenic and its cytotoxicity in primary mouse hepatocytes, Shinkai Yasuhiro, Sumi Daigo^{***}, Takashi Toyama^{*}, Toshiyuki Kaji, Yoshito Kumagai^{*}, *Toxicol. Appl. Pharmacol.*, 237, 232–236 (2009) (*筑波大院・人間総合科学, **徳島文理大・薬)
95. 23-Hydroxyursolic acid causes cell growth-inhibition by inducing caspase-dependent apoptosis in human cervical squamous carcinoma Hela cells, Makiko Takaya, Masaaki Nomura, Tatsuo Takahashi, Yoko Kondo, Lee Kyung-Tae^{*}, Shinjiro Kobayashi, *Anticancer Res.*, 29, 995–1000 (2009) (*Kyung-Hee University)
96. Interaction of cytochrome P450 3A4 and UDP-glucuronosyltransferase 2B7: Evidence for protein-protein association and possible involvement of CYP3A4 J-helix in the interaction, Shuso Takeda, Yuji Ishii^{*}, Megumi Iwanaga^{*}, Arief Nurrochmad^{*}, Yuji Ito^{**}, Mackenzie Peter I^{***}, Kiyoshi Nagata^{****}, Yasushi Yamazoe^{*****}, Kazuta Oguri^{*****}, Hideyuki Yamada^{*}, *Mol. Pharmacol.*, 75, 956–964 (2009) (*九大院・薬, **鹿児島大, ***フリンダース

大・医, ****東北薬大, ****東北大院・薬, *****九州保福大・薬)

97. Cannabidiol-2',6'-dimethyl ether, a cannabidiol derivative, is a highly potent and selective 15-lipoxygenase inhibitor, Shuso Takeda, Noriyuki Usami*, Ikuo Yamamoto*, Kazuhito Watanabe, *Drug Metab. Dispos.*, **37**, 1733–1737 (2009) (*九州保福大・薬)
98. Modulation of Δ^9 -tetrahydrocannabinol-induced MCF-7 breast cancer cell growth by cyclooxygenase and aromatase, Shuso Takeda, Ikuo Yamamoto*, Kazuhito Watanabe, *Toxicology*, **259**, 25–32 (2009) (*九州保福大・薬)
99. Neuroprotective action of genipin on tunicamycin-induced cytotoxicity in neuro2a cells, Masayuki Tanaka, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, *Biol. Pharm. Bull.*, **32**, 1220–1223 (2009)
100. Copper- and base-free Sonogashira-type cross-coupling reaction of triarylantimony dicarboxylates with terminal alkynes under an aerobic condition, Xuan Wang, Weiwei Qin, Naoki Kakusawa, Shuji Yasuike, Jyoji Kurita, *Tetrahedron Lett.*, **50**, 6293–6297 (2009)
101. Synthesis of optically active P-chirogenic ferrocene-fused benzophosphole by diastereoselective intramolecular cyclization of phosphanylferrocene derivatives, Shuji Yasuike, Jun-ichi Hagiwara, Hiroshi Danjo*, Masatoshi Kawahata*, Naoki Kakusawa, Kentaro Yamaguchi*, Jyoji Kurita, *Heterocycles*, **78**, 3001–3010 (2009) (*徳島文理大香川・薬)
102. Synthesis and thermal stability of 3-substituented-3-benzostibepines, Shuji Yasuike, Masaaki Ikoma, Naoki Kakusawa, Takashi Tsuchiya, Jyoji Kurita, *Heterocycles*, **79**, 659–667 (2009)
103. Genipin suppresses A23187-induced cytotoxicity in Neuro2a cells, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, Chiaki Yoshikawa, *Biol. Pharm. Bull.*, **32**, 1043–1046 (2009)
104. Rhodium-catalyzed 1,2-addition of Sb-phenyl-1,5-azastibocines to functionalized aldehydes, Naoki Kakusawa, Shuji Yasuike, Jyoji Kurita, *Heterocycles*, **80**, 163–168 (2010)

105. Neuritogenic activities of 1-Alkyloxygenipins, Hirokazu Suzuki, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, Yoshio Uemori, Hiroyuki Sawanishi, *Chem. Pharm. Bull.*, in press

3 著書・翻訳

1. 衛生薬学, 鍛冶 利幸 他著, 南江堂出版社 (2005.4)
2. 中国医学－医・薬学で漢方を学ぶ人のために, 劉 園英 他著, 南江堂出版社 (2005.11)
3. 健康と環境 日本薬学会編 スタンダード薬学シリーズ5, 渡辺 和人 他著, 東京化学同人 (2006.3)
4. 薬毒物試験法と注解2006 ー分析・毒性・対処法ー, 日本薬学会編, 渡辺 和人 他著, 東京化学同人 (2006.3)
5. アルコール, タバコ, 覚せい剤, 麻薬薬物依存Q&A, 前田 均 他編, 渡辺 和人 他著, ミネルヴァ書房 (2006.6)
6. Pharmaceutical Note 第2版, 百瀬 弥寿徳 編, 古林 伸二郎 他著, 医学評論社 (2008.2)
7. 衛生薬学サブノート初版 (岡野 登志夫・山崎 裕康・佐藤 雅彦・鍛冶 利幸 編集), 山本 千夏, 鍛冶 利幸 他著, 廣川書店 (2009.3)
8. 丈夫がいいねー夏場にご注意, 劉 園英 他著, 北國新聞社健康BOOK シリーズ17, 北國新聞社 (2009.6)
9. 漢方的健康生活, 劉 園英, 北國新聞社 (2009.7)
10. 自然に生きる力を蓄える20のアドバイス (監修), 劉 園英, 映寿会グループ (2009.8)
11. 中国医学～医・薬学で漢方を学ぶ人のために 第3版, 劉 園英 共著, 南江堂 (2009.10)
12. 丈夫がいいねー冬場にご注意, 劉 園英 他著, 北國新聞社健康BOOK シリーズ20, 北國新聞社 (2009.10)

4 その他刊行物

1. 北陸大学学術フロンティアと衛生薬学研究, 鍛冶 利幸, 薬事日報 (2005.8.26)
2. 劉先生の健康術「肺の乾燥を防ぐ」, 劉 園英, 元気通信 (2005.8)
3. 慢性的頭痛は臓腑に問題, 劉 園英, アクタス, 186, 106－107 (2005)
4. 痛風に冷飲冷食は厳禁, 劉 園英, アクタス, 187, 106－107 (2005)
5. 誤った風邪治療は危険, 劉 園英, アクタス, 188, 106－107 (2005)
6. 骨粗鬆症こそ漢方薬の出番, 劉 園英, アクタス, 189, 114－115 (2005)
7. お腹の調子は心の鏡, 劉 園英, アクタス, 190, 114－115 (2005)
8. 痔の治療は血行改善から, 劉 園英, アクタス, 191, 114－115 (2005)

9. 喘息と冷えの深い関係, 劉 園英, アクトス, 192, 128-129 (2005)
10. 漢方で変える不妊体質, 劉 園英, アクトス, 193, 148-149 (2005)
11. 体質で違うダイエット法, 劉 園英, アクトス, 194, 128-129 (2005)
12. じんましん起こす「風」, 劉 園英, アクトス, 195, 128-129 (2005)
13. 美肌には黒い食べ物, 劉 園英, アクトス, 196, 148-149 (2005)
14. 頻尿の改善は「腎」がカギ, 劉 園英, アクトス, 197, 128-129 (2005)
15. 生薬解説-麻黄, 劉 園英, 伝統医学, 27, 34 (2005)
16. 生薬解説-蒼朮, 劉 園英, 伝統医学, 28, 34 (2005)
17. 生薬解説-白朮, 劉 園英, 伝統医学, 29, 34 (2005)
18. 生薬解説-大棗, 劉 園英, 伝統医学, 30, 34 (2005)
19. 劉先生の健康術「体質改善が花粉症に効く」, 劉 園英, 元気通信 (2006.4.15)
20. チャングムが教えてくれた東洋医学の「人間味」, 劉 園英, えくせれんと, 10, 4-7 (2006)
21. 人にやさしい暮らしを考える (環境と健康に配慮した住まい), 劉 園英, 北國新聞 (2006.10.1)
22. 丈夫がいいね-中国流「茶の飲み方」, 劉 園英, 北國新聞 (2006.10.24)
23. 未病の知恵袋-薬膳, 劉 園英, 産経新聞 (2006.10.30)
24. 老化防止へ東西の医学融合, 劉 園英, 北國新聞 (2006.12.3)
25. 西洋医学と東洋医学を融合, 劉 園英, 北國新聞 (2006.12.17)
26. 老化と腰痛の深い関係, 劉 園英, アクトス, 198, 128-129 (2006)
27. とれない疲れの根本原因, 劉 園英, アクトス, 199, 128-129 (2006)
28. 五臓と五味の深い関係, 劉 園英, アクトス, 200, 138-139 (2006)
29. 健康な血で抜け毛と闘う, 劉 園英, アクトス, 201, 164-165 (2006)
30. 体を潤し, 口内炎を予防, 劉 園英, アクトス, 202, 164-165 (2006)
31. 気を巡らせ, うつ病改善, 劉 園英, アクトス, 203, 152-153 (2006)
32. 関節痛を招く三つの「邪」, 劉 園英, アクトス, 204, 142-143 (2006)
33. 生理痛は血の滞りが元凶, 劉 園英, アクトス, 205, 158-159 (2006)
34. 潤い不足で糖尿病に, 劉 園英, アクトス, 206, 150-151 (2006)
35. 陰陽バランス乱れ高血圧に, 劉 園英, アクトス, 207, 144-145 (2006)
36. 動脈硬化は「未病」の一つ, 劉 園英, アクトス, 208, 152-153 (2006)
37. 体質に合った食べ物を, 劉 園英, アクトス, 209, 142-143 (2006)
38. 生薬解説-麦門冬, 劉 園英, 伝統医学, 31, 38 (2006)
39. 生薬解説-茵陈蒿, 劉 園英, 伝統医学, 32, 38 (2006)
40. 生薬解説-牡丹皮, 劉 園英, 伝統医学, 33, 38 (2006)
41. 生薬解説-菊花, 劉 園英, 伝統医学, 34, 38 (2006)
42. 次世代の動脈硬化研究を担う若者たちの集い-領域を超えた交流による新たな展開, 浦野 晶子 (指導教員: 鍛冶 利幸), 薬事日報 (2007.3.23)

43. 温泉の効能と相乗効果, 劉 園英, 北國新聞 (2007.6.3)
44. 丈夫がいいね－高血圧 (上) ～五臓いたわり悪化防ぐ, 劉 園英, 北國新聞 (2007.6.3)
45. 丈夫がいいね－高血圧 (下) ～食後の菊花茶で血圧安定, 劉 園英, 北國新聞 (2007.6.4)
46. 代替医療で病気予防を, 劉 園英, 北國新聞 (2007.11.11)
47. 二味の配合－柴胡と黄芩, 劉 園英, 伝統医学, 35, 44 (2007)
48. 二味の配合－麻黄と石膏, 劉 園英, 伝統医学, 36, 56 (2007)
49. 二味の配合－芍薬と甘草, 劉 園英, 伝統医学, 37, 56 (2007)
50. 二味の配合－竜骨と牡蛎, 劉 園英, 伝統医学, 38, 57 (2007)
51. 食卓に薬膳の知恵を, 劉 園英, アクタス, 210, 150-151 (2007)
52. 精力減退「腎」に聞け, 劉 園英, アクタス, 211, 144-145 (2007)
53. 体癒やす365個のツボ, 劉 園英, アクタス, 212, 132-133 (2007)
54. 気功で高める健康の質, 劉 園英, アクタス, 213, 138-139 (2007)
55. 老化を遅らせる6つの法, 劉 園英, アクタス, 214, 144-145 (2007)
56. 間食はダメじゃない!?, 劉 園英, アクタス, 215, 160-161 (2007)
57. 6つの体質に効く食材, 劉 園英, アクタス, 216, 144-145 (2007)
58. 毎日のお茶で健康に, 劉 園英, アクタス, 217, 160-161 (2007)
59. 悪玉ストレスを善玉に, 劉 園英, アクタス, 218, 142-143 (2007)
60. 4つの「毒」から身を守る, 劉 園英, アクタス, 219, 148-149 (2007)
61. 瘀血と病気の怖い関係, 劉 園英, アクタス, 220, 162-163 (2007)
62. メタボリックシンドロームと未病, 劉 園英, アクタス, 221, 146-147 (2007)
63. 違法ドラッグの新たな法規制 指定薬物制度, 渡辺 和人, ファルマシア, 43, 1126-1127 (2007)
64. インターロイキン18は肥満抑制に関与する?, 廣岡 孝志, ファルマシア, 43, 61-62 (2007)
65. 病気の要因は, 習慣, 遺伝と環境, 鍛冶 利幸, 北國新聞 (2008.12.25)
66. 系統立てた漢方教育を目指して, 劉 園英, 漢方医薬学雑誌, 16, 26-27 (2008)
67. 高血圧－五臓いたわり悪化防ぐ－, 劉 園英, 丈夫がいいね－漢方の力, 16-17 (2008)
68. 高血圧－食後の菊花茶で血圧安定－, 劉 園英, 丈夫がいいね－漢方の力, 18-19 (2008)
69. 自分の体を守り病気にならないうちに治す, 劉 園英, MIL, 1, 27 (2008)
70. 生命力の源「腎」を健康に保つ, 劉 園英, 元気通信 (2008.7.12)
71. 老化を防ぐ, 劉 園英, 元気通信 (2008.8.15)
72. 二味の配合－竜骨と牡蛎, 劉 園英, 伝統医学, 38, 57 (2008)
73. 二味の配合－柴胡と升麻, 劉 園英, 伝統医学, 39, 55 (2008)
74. 二味の配合－知母と石膏, 劉 園英, 伝統医学, 40, 53 (2008)

75. 二味の配合－黄連と黄芩，劉 園英，伝統医学，41，57（2008）
76. 二味の配合－荊芥と防風，劉 園英，伝統医学，42，224（2008）
77. 肌を潤す「血」と「気」，劉 園英，アクタス，222，158－159（2008）
78. 自分の性格知っていますか？，劉 園英，アクタス，223，146－147（2008）
79. 血の巡り良くして片頭痛を解消，劉 園英，アクタス，224，124－125（2008）
80. ドライアイの原因は肝と腎にあり，劉 園英，アクタス，225，142－143（2008）
81. のどの異物感は気の乱れ，劉 園英，アクタス，226，140－141（2008）
82. 血の滞りが起こす子宮内膜症，劉 園英，アクタス，227，150－151（2008）
83. 認知症は腎虚と深い関係，劉 園英，アクタス，228，154－155（2008）
84. 「血虚」改善して貧血治療，劉 園英，アクタス，229，132－133（2008）
85. 口臭の原因は「胃熱」にあり，劉 園英，アクタス，230，138－139（2008）
86. 「肺熱」控えてニキビ改善，劉 園英，アクタス，231，148－149（2008）
87. 難聴は肝・腎・脾の乱れ，劉 園英，アクタス，232，158－159（2008）
88. 動悸は血液循環に問題あり，劉 園英，アクタス，233，68－69（2008）
89. かゆみは「外風」と「内風」の影響，劉 園英，アクタス，234，142－143（2008）
90. 男性不妊症の原因は「腎虚」にあり，劉 園英，アクタス，235，134－135（2008）
91. シンポジウムの話題：若手が切り開くMolecular Toxicology 4 有機金属類の毒性発現と防御を担う分子標的と生体応答システム，山本 千夏，薬事日報（2009.3.18）
92. 環境と健康「環境と健康の接点」，鍛冶 利幸，北日本新聞（2009.7.26）
93. 二味の配合－大黃と芒硝，劉 園英，伝統医学，43，56（2009）
94. 二味の配合－黄耆と防己，劉 園英，伝統医学，44，53（2009）
95. 二味の配合－半夏と黄芩，劉 園英，伝統医学，45，51（2009）
96. 「舌痛」は心と内臓の病を表す，劉 園英，アクタス，236，138－139（2009）
97. 「環境と健康」－健康を脅かす環境問題，鍛冶 利幸，アクタス，237，146－147（2009）
98. 「水虫菌」は外と内から撃退を，劉 園英，アクタス，237，150－151（2009）
99. 「環境病」－予防にも食が重要，鍛冶 利幸，アクタス，238，166－167（2009）
100. 「帯状疱疹」は予後にご用心，劉 園英，アクタス，238，170－171（2009）
101. 体質改善で不快な汗を解消，劉 園英，アクタス，239，164－165（2009）
102. 「老眼」は肝と腎を鍛えて防ぐ，劉 園英，アクタス，240，162－163（2009）
103. 肺，脾，腎の機能回復でむくみ改善，劉 園英，アクタス，241，230－231（2009）
104. 「食欲不振」は体と心の疲れのサイン，劉 園英，アクタス，242，150－151（2009）
105. 歯のトラブルに，漢方の有効活用を，劉 園英，アクタス，243，178－179（2009）
106. 新型インフル，早めの漢方で病邪を退治，劉 園英，アクタス，244，180－181（2009）
107. 漢方で心も体も強い子に，劉 園英，アクタス，245，194－195（2009）

客員教授・客員研究員業績

[総説]

1. Chemo- and regioselective deprotonation reactions using ate complexes, Robert E. Mulvey, Florence Mongin, Masanobu Uchiyama*, Yoshinori Kondo, *Angew. Chem., Int. Ed.*, **46**, 3802–3824 (2007) (*理研)
2. Zinc, Masanobu Uchiyama*, Tomoko Uchiyama, *Chemistry&Education*, **55**, 570–573 (2007) (*理研)
3. 水俣病の病理－メチル水銀毒性－, 衛藤 光明*, 安武 章*, 澤田 倍美, 徳永 英博, 興梠 征典, 臨床と病理・別冊, **25**, 776–779 (2007) (*国立水俣研)
4. Design and function of heteroleptic Zinc ate complexes, Masanobu Uchiyama*, *J. Syn. Org. Chem.*, **67**, 4–16 (2008) (*理研)
5. Silylmetalation of alkenes, Shinji Nakamura, Mitsuhiro Yonehara*, Masanobu Uchiyama*, *Chem. Eur. J.*, **4**, 1068–1078 (2008) (*理研)
6. Design and function of ate complexes, Masanobu Uchiyama*, *Kagaku to Kogyo*, **62**, 1174–1176 (2009) (*理研)

[原著]

1. *Anti*-[2,2] (1,4) Phthalocyaninophane: spectroscopic evidence for transannular interaction in the excited states, Yoshiaki Asano, Atsuya Muranaka*, Akira Fukasawa, Terutaka, Hatano*, Masanobu Uchiyama*, Nagao Kobayashi, *J. Am. Chem. Soc.*, **129**, 4516–4517 (2007) (*理研)
2. Reverse photochromic behavior of iron-magnesium complex, Minoru Kobayashi, Akito Takashima, Tomohiko Ishii, Hiroshi Naka, Masanobu Uchiyama*, Kentaro Yamaguchi, *Inorg. Chem.*, **46**, 1039–1041 (2007) (*理研)
3. On the kinetic and thermodynamic reactivity of lithium di (alkyl) amidozincate bases in directed Ortho metalation, Yoshinori Kondo, James V. Morey, Jacqueline C. Morgan, Hiroshi Naka, Daisuke Nobuto*, Paul R. Raithby, Masanobu Uchiyama*, Andrew E. H. Wheatley, *J. Am. Chem. Soc.*, **129**, 12734–12738 (2007) (*理研)

4. Theoretical studies on ortho oxidation of phenols with dioxygen mediated by dicopper complex: hints for a catalyst with the phenolase activity of tyrosinase, Hiroshi Naka, Yoshinori Kondo, Shinya Usui*, Yuichi Hashimoto*, Masanobu Uchiyama*, *Adv. Synth. Catal.*, **349**, 595–600 (2007) (*理研)

5. An aluminum ate base: its design, structure, function and reaction mechanism, Hiroshi Naka, Masanobu Uchiyama*, Yotaro Matsumoto, Andrew E. H. Wheatley, Mary McPartlin, James V. Morey, Yoshinori Kondo, *J. Am. Chem. Soc.*, **129**, 1921–1930 (2007) (*理研)

6. Regio- and chemoselective silylmatalation of functionalized alkenes, Shinji Nakamura, Masanobu Uchiyama*, *J. Am. Chem. Soc.*, **129**, 28–29 (2007) (*理研)

7. Ligand-activated lithium-mediated zincation of N-phenylpyrrole, Anne Seggio, Marie-Isabelle Lannou, Floris Chevallier, Daisuke Nobuto*, Masanobu Uchiyama*, Stehane Golhen, Thierry Roisnel, Florence Mongin, *Chem. Eur. J.*, **13**, 9982–9989 (2007) (*理研)

8. Origin of chemoselectivity of TMP-Zincate base: differences between TMP-Zincate and alkylolithium reagents, Masanobu Uchiyama*, Yotaro Matsumoto, Shinya Usui*, Yuichi Hashimoto, Keiji Morokuma, *Angew. Chem., Int. Ed.*, **46**, 926–929 (2007) (*理研)

9. Reaction pathway of conjugate addition of lithium organozincates to s-trans enones, Masanobu Uchiyama*, Shinji Nakamura, Eiichi Nakamura, Keiji Morokuma, *J. Am. Chem. Soc.*, **129**, 13360–13361 (2007) (*理研)

10. Direct *ortho* cupration: a new route to regioselectively functionalized aromatics, Shinya Usui*, Yuichi Hashimoto, James V. Morey, Andrew E. H. Wheatley, Masanobu Uchiyama*, *J. Am. Chem. Soc.*, **129**, 15102–15103 (2007) (*理研)

11. 新潟水俣病関係30剖検例の病理学的・生化学的研究, 衛藤 光明*, 高橋 均, 柿田 明美, 徳永 英博, 安武 章*, 中野 篤浩, 澤田 倍美, 金城 芳秀, *Jpn. J. Hyg.*, **62**, 70–88 (2007) (*国立水俣研)

12. Comparative study for activities of reactive oxygen species production/defense system in mitochondria of rat brain and liver, and their susceptibility to

- methylmercury toxicity, Mori Nobuko, Akira Yasutake*, Hirayama Kimiko, *Arch. Toxicol.*, **81**, 769–776 (2008) (*国立水俣研)
13. 'Conformational' solvatochromism: spatial discrimination of nonpolar solvents using a supramolecular box of a π -conjugated zinc bisporphyrin rotamer, Junko Aimi, Yuka Nagamine, Akihiko Tsuda, Atsuya Muranaka*, Masanobu Uchiyama*, Takuzo Aida, *Angew. Chem. Int. Ed.*, **47**, 5153–5156 (2008) (*理研)
 14. Development of highly chemoselective bulky zincate complex, $^t\text{Bu}_4\text{ZnLi}_2$: design, structure, and practical applications in small-/macro-molecular synthesis, Taniyuki Furuyama*, Mitsuhiro Yonehara*, Sho Arimoto, Minoru Kobayashi, Yotaro Matsumoto, Masanobu Uchiyama*, *Chem. Eur. J.*, **14**, 10348–10356 (2008) (*理研)
 15. Suppressing the anionic fries rearrangement of aryl dialkylcarbamates; the isolation of a crystalline *ortho*-deprotonated carbamate, Felipe García, Mary McPartlin, James V. Morey, Daisuke Nobuto*, Yoshinori Kondo, Hiroshi Naka*,*, Masanobu Uchiyama*, Andrew E. H. Wheatley, *Eur. J. Org. Chem.*, 644–647 (2008) (*理研, **名大・物国七)
 16. Organozinc reagents in DMSO solvent: remarkable promotion of $\text{S}_\text{N}2'$ reaction for allene synthesis, Koji Kobayashi, Hiroshi Naka*, Andrew E. H. Wheatley, Yoshinori Kondo, *Org. Lett.*, **10**, 3375–3377 (2008) (*名大・物国七, 理研)
 17. Activation of organozinc reagents with *t*-Bu-P4 base for transition metal-free catalytic $\text{S}_\text{N}2'$ reaction, Koji Kobayashi, Masahiro Ueno, Hiroshi Naka*, Yoshinori Kondo, *Chem. Commun.*, **32**, 3780–3782 (2008) (*名大・物国七, 理研)
 18. Deprotonative metalation of five-membered aromatic heterocycles using mixed lithium-zinc species, Jean-Martial L'Helgoual'ch, Anne Seggio, Floris Chevallier, Mitsuhiro Yonehara*, Erwann Jeanneau, Masanobu Uchiyama*, Florence Mongin, *J. Org. Chem.*, **73**, 177–183 (2008) (*理研)
 19. Solid-phase synthesis of phthalocyanine and tetraazaporphyrin triangular prisms, Atsuya Muranaka*, Kengo Yoshida*, Yusuke Akagi, Hiroshi Naka*,*, Masanobu Uchiyama*, Yoshinori Kondo, Nagao Kobayashi, *Tetrahedron Lett.*, **49**, 5084–5086 (2008) (*理研, **名大・物国七)

20. Catalytic deprotonative functionalization of propargyl silyl ethers with imines, Hiroshi Naka*, Daiki Koseki, Yoshinori Kondo, *Adv. Synth. Catal.*, **350**, 1901 – 1906 (2008) (*名大・物国セ, 理研)
21. Chiral bisphosphazides as dual basic enantioselective catalysts, Hiroshi Naka*, Nobuhiko Kanase, Masahiro Ueno, Yoshinori Kondo, *Chem. Eur. J.*, **14**, 5267 – 5274 (2008) (*名大・物国セ, 理研)
22. A mixed alkyl-amido aluminate as a kinetically controlled base, Hiroshi Naka***, James V. Morey, Joanna Haywood, Dana J. Eisler, Mary McPartlin, Felipe Garcí'a, Hironaga Kudo, Yoshinori Kondo, Masanobu Uchiyama**, Andrew E. H. Wheatley, *J. Am. Chem. Soc.*, **130**, 16193 – 16200 (2008) (*名大・物国セ, **理研)
23. Electronic structures of azulene-fused porphyrins as seen by magnetic circular dichroism and TD-DFT calculations, Katsunori Nakai, Kei Kurotobi, Atsuhiko Osuka, Masanobu Uchiyama*, Nagao Kobayashi, *J. Inorg. Biochem.*, **102**, 466 – 471 (2008) (*理研)
24. A new interpretation of the reaction pathway of deprotonative with TMP-ate/TMEDA Complex [TMEDA · Na (μ -^tBu) (μ -TMP) Zn (^tBu)] , Daisuke Nobuto*, Masanobu Uchiyama*, *J. Org. Chem.*, **73**, 1117 – 1120 (2008) (*理研)
25. Strain difference of cadmium accumulation by liver slices of inbred wistar-imamichi and fischer 344 rats, Hideaki Shimada, Akira Yasutake*, Takaomi Hirashima, Yasutaka Takamure, Takeshi Kitano, Waalkes Michael P, Yorishige Imamura, *Toxicol. in Vitro*, **22**, 338 – 343 (2008) (*国立水俣研)
26. Generation and suppression of 3-/4-functionalized benzyne using zinc ate base (TMP-Zn-ate) : new approaches to multi-substituted benzenes, Masanobu Uchiyama*, Yuri Kobayashi, Taniyuki Furuyama*, Shinji Nakamura, Yumiko Kajihara, Tomoko Miyoshi, Takao Sakamoto, Yoshinori Kondo, Keiji Morokuma, *J. Am. Chem. Soc.*, **130**, 472 – 480 (2008) (*理研)
27. Deprotonative cadmation of functionalized aromatics, Jean-Martial L'Helgoual'ch, Ghenia Bentabed-Ababsa, Floris Chevallier, Mitsuhiro Yonehara*, Masanobu Uchiyama*, Ai "cha Derdourb, Florence Mongin, *Chem. Commun.*, **15**, 5375 –

5377 (2008) (*理研)

28. Emergence of delayed methylmercury toxicity after perinatal exposure in metallothionein-null and wild-type C57BL mice, Minoru Yoshida, Natsuki Shimizu, Megumi Suzuki, Chiho Watanabe, Masahiko Satoh, Kouki Mori, Akira Yasutake*, *Env. Health Pers.*, **116**, 746–751 (2008) (*国立水俣研)
29. Identification of absolute helical structures of aromatic multi-layered oligo (m-phenylurea)s in solution, Mayumi Kudo, Takayuki Hanashima, Atsuya Muranaka*, Hisako Sato, Masanobu Uchiyama*, Isao Azumaya, Tomoya Hirano, Hiroyuki Kagechika, Aya Tanatani, *J. Org. Chem.*, **74**, 8154–8163 (2009) (*理研)
30. Synthesis of well-defined hyperbranched polyamides by condensation polymerization of AB₂ monomer making use of changed substituent effects, Yoshihiro Ohta, Shuichi Fujii, Akihiro Yokoyama, Taniyuki Furuyama*, Masanobu Uchiyama*, Tsutomu Yokozawa, *Angew. Chem. Int. Ed.*, **48**, 5942–5945 (2009) (*理研)
31. Deprotonative metalation of functionalized aromatics using mixed lithium-cadmium, lithium-indium, and lithium-Zinc species, Katia Snégaroff, Jean-Martial L'Helgoual'ch, Ghenia Bentabed-Ababsa, Tan Tai Nguyen, Floris Chevallier, Mitsuhiro Yonehara*, Masanobu Uchiyama*, Aïcha Derdour, Florence Mongin, *Chem. Eur. J.*, **15**, 10280–10290 (2009) (*理研)
32. Application of the perimeter model to assignment of electronic absorption spectra of Gold (III) Hexaphyrins with [4n+2] and [4n]π-electron systems, Atsuya Muranaka*, Osamu Matsushita, Kengo Yoshida*, Shigeki Mori, Masaaki Suzuki, Taniyuki Furuyama*, Masanobu Uchiyama*, Atsuhiko Osuka, Nagao Kobayashi, *Chem. Eur. J.*, **15**, 3744–3751 (2009) (*理研)
33. Fluorescent probe for Zn²⁺ with light-harvesting pyrenyl groups: sensitization via intramolecular energy transfer, Hitoshi Shirase, Yukie Mori*, Yutaka Fukuda, Masanobu Uchiyama*, *Monat. Chem.*, **140**, 801–805 (2009) (*理研)
34. Synthesis and chiral discrimination of cyclic aromatic amides and the determination of their absolute configuration by TD-DFT calculation, Kosuke

- Katagiri, Takashi Ikeda, Atsuya Muranaka*, Masanobu Uchiyama*, Masahide Tominaga, Isao Azumaya, *Tetrahedron: Asymm.*, in press (*理研)
35. Regioselective silylzincation of phenylallene derivatives, Mitsuhiro Yonehara*, Shinji Nakamura*, Atsuya Muranaka*, Masanobu Uchiyama*, *Chem. Asian J.*, in press (150th anniversary of Japan-UK relations) (*理研)
 36. Reconstruction of human exposure to heavy metals using synchrotron radiation microbeams in prehistoric and modern humans, Akio Koizumi, Miki Azechi, Koyo Shirasawa, Norimitsu Saito, Kiyohide Saito, Nobuo Shigehara, Kazuhiro Sakaue, Yoshihiro Shimizu, Hisao Baba, Akira Yasutake*, Kouji Harada, Takeo Yoshinaga, Ide-Ektessabi Ari, *Environ. Health Prev. Med.*, **14**, 52–59 (2009) (*国立水俣研)
 37. Strain difference of cadmium-induced testicular toxicity in inbred Wistar-Imamichi and Fischer 344 rats, Hideaki Shimada, Rika Narumi, Masaaki Nagano*, Akira Yasutake*, Waalkes Michael P, Yorishige Imamura, *Arch. Toxicol.*, **83**, 647–652 (2009) (*国立水俣研)
 38. Purpurin is a key molecule for cell differentiation during the early development of zebrafish retina, Mikiko Nagashima*, Kazuhiro Mawatari*, Masayuki Tanaka*, Tomomi Higashi*, Hikaru Saito*, Kenichiro Muramoto*, Toru Matsukawa*, Yoshiki Koriyama*, Kayo Sugitani*, Satoru Kato*, *Brain Res.*, **1302**, 54–63 (2009) (*金沢大院・医)
 39. Neuroprotective effects of 5-S-GAD against oxidative stress-induced apoptosis in RGC-5 cell, Yoshiki Koriyama*, Mamoru Ohno, Takahito Kimura, Satoru Kato*, *Brain Res.*, **1296**, 187–195 (2009) (*金沢大院・医)
 40. Nitric oxide-cGMP signaling regulates axonal elongation during optic nerve regeneration in the goldfish in vitro and in vivo, Yoshiki Koriyama*, Rie Yasuda*, Keiko Homma*, Kazuhiro Mawatari*, Mikiko Nagashima*, Kayo Sugitani*, Toru Matsukawa*, Satoru Kato*, *J. Neurochem.*, **110**, 890–901 (2009) (*金沢大院・医)
 41. Involvement of retinoic acid signaling in goldfish optic nerve regeneration, Mikiko Nagashima*, Hiroyuki Sakurai*, Kazuhiro Mawatari*, Yoshiki Koriyama*, Toru Matsukawa*, Satoru Kato*, *Neurochem. Int.*, **54**, 229–236

(2009) (*金沢大院・医)

42. S_N2' reaction of organozinc reagents activated by catalytic tBu-P4 base in the presence of LiCl, Koji Kobayashi, Masahiro Ueno, Hiroshi Naka*, Yoshinori Kondo, *Chem. Eur. J.*, **15**, 9805–9809 (2009) (*名大・物国セ, 理研)

5 学会発表

1. ニホンザル肝Microsomal Alcohol Oxygenaseのテストステロンによる活性化機構のGC/MSを用いた解析, 舟橋 達也, 田中 雄基, 山折 大, 木村 敏行, 松永 民秀*, 大森 栄*, 景山 節**, 山本 郁男***, 渡辺 和人, 第59回北陸質量分析談話会, 富山 (2005.5) (*信州大医・病, **京都大・霊長研, ***九州保福大・薬)
2. β -Amyloid proteinによる神経細胞死における当帰芍薬散の制御作用, 劉 園英, 小島 崇伸, 第56回日本東洋医学会学術総会, 富山 (2005.5)
3. FGF-2による培養血管平滑筋細胞のビグリカンおよびデコリン合成のデルマタン硫酸糖鎖の二糖組成の変化を伴った誘導, 山本 千夏, 岩崎 恵里奈, 藤原 泰之, 鍛冶 利幸, 第37回日本結合組織学会学術大会, 富山 (2005.5)
4. Epidermal growth factorによって誘導されるcell transformationとAkt活性のcaffeineによる抑制, 野村 政明, 古林 伸二郎, 宮本 謙一*, 第107回日本薬理学会近畿部会, 金沢 (2005.6) (*金沢大・病院薬)
5. 東洋医学における緩和医療～漢方と疼痛緩和～ (特別講演), 劉 園英, 第12回石川緩和医療研究会, 金沢 (2005.6)
6. トロンビンが血管平滑筋細胞のパールカン合成を誘導する, 山本 千夏, 若田 貴子, 藤原 泰之, 鍛冶 利幸, 第6回Pharmaco-Hematologyシンポジウム, 東京 (2005.7)
7. 血管内皮および平滑筋細胞の増殖に対するコロミン酸および硫酸化コロミン酸の作用, 山本 千夏, 森田 有紀, 山口 信也*, 林 利光**, 鍛冶 利幸, 第25回日本糖質学会年会, 大津 (2005.7) (*マルキンバイオ, **富山大・薬)
8. 高血圧症と漢方～漢方の食養生 (特別講演), 劉 園英, 第3回福岡統合医療研究会, 福岡 (2005.7)

9. β -amyloid proteinによる神経細胞死に対する当帰芍薬散の制御効果とその作用機序, 劉 園英, 第22回 和漢医薬学会大会, 東京 (2005.8)
10. 大麻主成分Cannabidiolから生成するTetrahydrocannabinol関連化合物の薬理効果, 渡辺 和人, 糸川 由佳, 山折 大, 舟橋 達也, 木村 敏行, 山本 郁男*, 日本法中毒学会第24年会, 福岡 (2005.8) (*九州保福大・薬)
11. MDMAのラット肝ミクロソームによる代謝過程での一酸化炭素生成, 木村 敏行, 山路 友香, 山折 大, 舟橋 達也, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本法中毒学会第24年会, 福岡 (2005.8) (*九州保福大・薬)
12. Conversion of cannabidiol to hexahydrocannabinols and their pharmacological effects in mice, Kazuhito Watanabe, Yuka Itokawa, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto*, The International Association of Forensic Toxicologists (TIAFT) 43rd International Meeting, Seoul, Korea (2005.8) (*九州保福大・薬)
13. Metabolic formation of carbon monoxide from MDMA and MDA by rat liver microsomes, Toshiyuki Kimura, Yuka Yamaji, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi, Kazuhito Watanabe, Ikuo Yamamoto*, The International Association of Forensic Toxicologists (TIAFT) 43rd International Meeting, Seoul, Korea (2005.8) (*九州保福大・薬)
14. Inhibition of steroidogenesis in adult rat testis by cannabinoids, Tatsuya Funahashi, Naoki Matsuzawa, Hideharu Ikeuchi, Satoshi Yamaori, Toshiyuki Kimura, Kazuhito Watanabe, Ikuo Yamamoto*, The International Association of Forensic Toxicologists (TIAFT) 43rd International Meeting, Seoul, Korea (2005.8) (*九州保福大・薬)
15. Expression of cannabinoid CB1 receptor in mouse neuroblastoma C-1300N18 and NB2a cell lines, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi, Toshiyuki Kimura, Kazuhito Watanabe, Ikuo Yamamoto*, The International Association of Forensic Toxicologists (TIAFT) 43rd International Meeting, Seoul, Korea (2005.8) (*九州保福大・薬)
16. Role of carboxylesterase in the metabolism of abuse drugs possessing ester groups, Ikuo Yamamoto*, Masumi Imoto*, Noriyuki Usami*, Kazuhito

Watanabe, The International Association of Forensic Toxicologists (TIAFT) 43rd International Meeting, Seoul, Korea (2005.8) (*九州保福大・薬)

17. Biochemical pharmacology of marijuana, metabolism and toxicology, Department of Medical Pharmacology and Toxicology, Kazuhito Watanabe, College of Medicine, Texas A & M University System Health Science Center, College Station, Texas, U.S.A (2005.9)
18. Metabolic interactions of cannabinoids with steroid hormones, Department of Pharmacology and Toxicology, Kazuhito Watanabe, University of Mississippi Medical Center Jackson, Mississippi, U.S.A (2005.9)
19. Neurotrophic effects of genipin: Neuroprotective actions through nitric oxide synthase activation on oxidative stress in Neuro2a cells, 千葉 賢三, 山崎 眞津美, 佐藤 敬子, 第48回日本神経化学学会大会, 福岡 (2005.9)
20. Neurotrophic effects of genipin: Neuroprotective actions on ER stress in Neuro2a cells, 山崎 眞津美, 千葉 賢三, 第48回日本神経化学学会大会, 福岡 (2005.9)
21. Pharmacological effects of anandamide and 2-arachidonoylglycerol in mice, and enhancement of their effects by phenylmethylsulfonylfluoride, 渡辺 和人, 木村 敏行, 舟橋 達也, 山折 大, 山本 郁男*, 慶熙大学・北陸大学合同シンポジウム, 金沢 (2005.9) (*九州保福大・薬)
22. Role of N (epsilon) - (carboxymethyl) lysine adduct for neovascularization of choroidal and retinal capillary in aged and diabetic rats, 古林 伸二郎, 野村 政明, 慶熙大学・北陸大学・合同シンポジウム, 金沢 (2005.9)
23. NO-mediated neuroprotective effect of genipin on ER stress-induced cytotoxicity in neuro2a cells, 山崎 眞津美, 佐藤 敬子, 千葉 賢三, 第78回日本生化学大会, 神戸 (2005.10)
24. Neurotrophic effects of genipin on oxidative stress-induced cytotoxicity in Neuro2a cells, 吉川 千秋, 山崎 眞津美, 佐藤 敬子, 千葉 賢三, 第78回日本生化学大会, 神戸 (2005.10)

25. コロミン酸による血管内皮および平滑筋細胞の増殖阻害：硫酸化による活性の制御，山本 千夏，森田 有紀，山口 信也^{*}，林 利光^{**}，鍛冶 利幸，フォーラム2005 衛生薬学・環境トキシコロジー，徳島（2005.10）（^{*}マルキンバイオ，^{**}富山大・薬）
26. 亜ヒ酸ナトリウムによる血管内皮細胞プロテオグリカン合成の阻害，藤原 泰之，中瀬 裕介，鍛冶 利幸，フォーラム2005 衛生薬学・環境トキシコロジー，徳島（2005.10）
27. 大麻主成分によるラット精巣StAR（Steroidogenic Acute Regulatory）タンパク質の発現阻害，舟橋 達也，日永田 麻美，松澤 直樹，山折 大，木村 敏行，山本 郁男^{*}，山崎 岳^{**}，渡辺 和人，フォーラム2005 衛生薬学・環境トキシコロジー，徳島（2005.10）（^{*}九州保福大・薬，^{**}広島大）
28. 動脈硬化の進展メカニズムと防御に関する衛生薬学的研究（日本薬学会環境・衛生部会賞受賞講演），山本 千夏，フォーラム2005 衛生薬学・環境トキシコロジー，徳島（2005.10）
29. 第15族元素から成るトリアリール誘導体と三塩化ホウ素との反応，安池 修之，根元 あや子，栗田 城治，平成17年度有機合成化学北陸セミナー，福井（2005.10）
30. 海洋天然物Pseudodistomin A及びBの合成研究，田中 憲一，前唄 拓哉，澤西 啓之，第31回反応と合成の進歩シンポジウム，神戸（2005.11）
31. Ni触媒を利用したビスジメチルフェニルシリル亜鉛とアリールトリフレート類とのクロスカップリング反応，安池 修之，Aandrei Gavryushin^{*}，Paul Knochel^{*}，第31回反応と合成の進歩シンポジウム，神戸（2005.11）（^{*}ミュンヘン大・化学）
32. Neuro2a細胞のストレス障害に対するGenipinの保護効果：作用機作に関する研究，吉川 千秋，山崎 眞津美，佐藤 敬子，千葉 賢三，日本薬学会北陸支部第113回例会，金沢（2005.11）
33. トリアリールアンチモン類の化学反応性（1）：アリールボラン酸エステルへの金属交換反応，安池 修之，根本 あや子，栗田 城治，日本薬学会北陸支部第113回例会，金沢（2005.11）
34. トリアリールアンチモン類の化学反応性（2）：マイクロ波を利用した水系での α -ブロモケトン類の脱臭素化反応，安池 修之，菅原 芳之，角澤 直紀，栗田 城

治, 日本薬学会北陸支部第113回例会, 金沢 (2005.11)

35. 脳神経の発達と脳特異的プロテオグリカン, 周尾 卓也, 大平 敦彦*, 鍛冶 利幸, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング「メチル水銀の毒性研究は今」, 水俣 (2005.11) (*愛知県コロニー研)
36. 硫酸化多糖による血管内皮および平滑筋細胞増殖の制御, 山本 千夏, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング「糖鎖関連化合物の生物活性」, 京都 (2005.11)
37. カフェインのシスプラチン抗腫瘍効果増強作用におけるp53の関与, 野村 政明, 坂戸 悠里*, 古林 伸二郎, 宮本 謙一*, 第26回日本臨床薬理学会年会, 別府 (2005.12) (*金沢大・病院薬)
38. 動脈硬化の進展メカニズムに関与する血管細胞機能の制御 (成果発表講演), 山本 千夏, 平成17年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「動脈硬化」, 金沢, (2006.3)
39. 動脈硬化に対する漢方薬の有用性～東洋医薬学に立脚した治療・予防戦略～ (成果発表講演), 劉 園英, 平成17年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「動脈硬化」, 金沢, (2006.3)
40. トリアリールアンチモン化合物からの金属交換反応を利用したアリールホウ酸エステル類の新規合成法, 安池 修之, 根本 あや子, 中田 和秀*, 鍛冶 利幸, 栗田 城治, 平成17年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「動脈硬化」, 金沢, (2006.3) (*法政大・自然セ)
41. Genipinの神経栄養因子様作用: ストレスにより誘導される Neuro2a細胞障害に対する防護作用, 千葉 賢三, 吉川 千秋, 佐藤 敬子, 山崎 眞津美, 平成17年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「動脈硬化」, 金沢, (2006.3)
42. 糖尿病態ラットの培養脈絡膜の血管新生異常におけるTNF α の関与とtetrandrineの抑制作用, 古林 伸二郎, 菊池 穂, 野村 政明, 平成17年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「動脈硬化」, 金沢, (2006.3)
43. ヘパラン硫酸糖鎖は血管内皮細胞に対するカドミウムの細胞傷害性を増強する, 藤原 泰之, 深谷 允, 鍛冶 利幸, 平成17年度北陸大学学術フロンティア年次研究

集会「動脈硬化」, 金沢, (2006.3)

44. カンナビノイドCB₂受容体を介した Δ^8 -テトラヒドロカンナビノールのマクロファージ細胞障害作用, 山折 大, 石井 浩介, 阿部 賀奈子, 舟橋 達也, 木村 敏行, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 平成17年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「動脈硬化」, 金沢, (2006.3) (*九州保福大・薬)
45. 1-Benzylxanthine誘導体のPDE4阻害活性, 鈴木 宏一, 澤西 啓之, 野村 政明, 嶋田 努*, 宮本 謙一*, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (*金沢大・病院薬)
46. ホモシステインによる血管平滑筋細胞プロテオグリカン合成の阻害, 藤原 泰之, 三上 千尋, 永井 倫典, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
47. ADAMTS-4によるNGC細胞外領域の切り出し機構の解析, 周尾 卓也, 丸山 浩代, 青野 幸子*, 中西 圭子*, 時田 義人*, 松井 ふみ子*, 黒田 喜幸*, 伊田 みちる*, 藤原 泰之, 山本 千夏, 大平 敦彦*, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (*愛知県コロニー研)
48. アディポネクチンによる培養ヒト冠動脈平滑筋細胞プロテオグリカン合成の調節, 浦野 晶子, 山本 千夏, 藤原 泰之, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
49. TNF- α による培養ウシ大動脈平滑筋細胞プロテオグリカン合成の調節, 佐藤 友子, 山本 千夏, 藤原 泰之, 石原 知絵, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
50. ヘパラン硫酸糖鎖は血管内皮細胞に対するカドミウムの細胞傷害性を増強する, 深谷 允, 藤原 泰之, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
51. Δ^9 -テトラヒドロカンナビノールのペントバルビタール睡眠増強作用メカニズム, 木村 敏行, 高屋 牧子, 舟橋 達也, 山折 大, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (*九州保福大・薬)
52. カンナビノイドによるラット精巢間質細胞中のSteroidogenic Acute Regulatory (StAR) タンパク質の発現阻害及び細胞毒性, 舟橋 達也, 日永田 麻美, 山折 大, 木村 敏行, 山本 郁男*, 山崎 岳**, 渡辺 和人, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (*九州保福大・薬, **広島大)

53. タンパク質分解酵素阻害薬ナファモスタットを加水分解するヒト血液エステラーゼ, 山折 大, 串原 美佳, 舟橋 達也, 木村 敏行, 山本 郁男*, 松村 謙二**, 織田 実**, 渡辺 和人, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (*九州保福大・薬, **鳥居薬品)
54. Δ^9 -テトラヒドロカンナビノールのマウスマクロファージJ774-1株に対する細胞毒性はカンナビノイドCB₂受容体を介して誘発される, 石井 浩介, 山折 大, 阿倍 賀奈子, 舟橋 達也, 木村 敏行, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (*九州保福大・薬)
55. タンパク質分解酵素阻害薬ガベキサートの加水分解におけるヒト血液アリールエステラーゼ及びブチリルコリンエステラーゼの関与, 串原 美佳, 山折 大, 舟橋 達也, 木村 敏行, 山本 郁男*, 松村 謙二**, 織田 実**, 渡辺 和人, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (*九州保福大・薬, **鳥居薬品)
56. カンナビノイドによるラット精巣3 β -hydroxysteroid dehydrogenase阻害機構, 三澤宏一郎, 舟橋 達也, 山折 大, 木村 敏行, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (*九州保福大・薬)
57. 上皮増殖因子によって誘導されるcell transformation のtetrandrineによる抑制機構, 野村 政明, 山崎 理名, 菊池 穂, 古林 伸二郎, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
58. 糖尿病態ラットの培養脈絡膜の血管新生異常におけるTNF α の関与とtetrandrineによる抑制, 菊池 穂, 野村 政明, 古林 伸二郎, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
59. イリドイド関連化合物の神経突起誘導作用, 千葉 賢三, 山崎 眞津美, 菊池 正史*, 町田 浩一*, 菊池 正雄**, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (*東北薬大, **東北薬科大・薬)
60. 小胞体ストレス障害に対するgenipinの防護作用, 山崎 眞津美, 吉川 千秋, 千葉 賢三, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
61. 有機アンチモン化合物とマイクロ波を利用した水系での α -プロモケトン類の脱臭素化反応, 安池 修之, 菅原 芳之, 角澤 直紀, 栗田 城治, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)

62. *o*-エチニルベンジルセレニド類の分子内環化反応, 指田 春喜, 中村 祥子, 鈴木 宏一, 澤西 啓之, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
63. Inhibition of EGF-induced cell transformation by flavonoids, 野村 政明, 宮本 謙一*, 古林 伸二郎, American Association for Cancer Research (AACR) 97th Annual Meeting, ワシントンDC (2006.4) (*金沢大・病院薬)
64. Novel functions of cytochrome P450 as microsomal oxygenase catalyzing from alcohol and/or aldehyde to corresponding ketones and carboxylic acid in relation to the metabolism of tetrahydrocannabinol, Ikuo Yamamoto*, Kazuhito Watanabe, Shizuo Narimatsu**, Tamihide Matsunaga***, Toshiyuki Kimura, Tatsuya Funahashi, Satoshi Yamaori, Noriyuki Usami*, Hidetoshi Yoshimura****, The 14th Takeda Science Foundation Symposium on Bioscience The 50th Anniversary of Oxygenases - Advances and Reflections Japan, Kyoto (2006.4) (*九州保福大・薬, **岡山大院・薬, ***信州大・病薬, ****九大・薬)
65. 腫瘍壊死因子- α による血管平滑筋細胞プロテオグリカン合成の調節, 佐藤 友子, 山本 千夏, 藤原 泰之, 鍛冶 利幸, 第38回 日本結合組織学会学術大会, 前橋 (2006.5)
66. Computer simulation of genipin-NO synthase interaction, 千葉 賢三, 山崎 眞津美, 鈴木 宏一, 澤西 啓之, 第6回日本NO学会学術集会, 東京 (2006.5)
67. Primitive role of neuronal nitric oxide synthase in genipin-induced neurite outgrowth, 山崎 眞津美, 千葉 賢三, 第6回日本NO学会学術集会, 東京 (2006.5)
68. ヒト肝シトクロムP450によるカンナビジオールの代謝, 渡辺 和人, 山折 大, 舟橋 達也, 木村 敏行, 山本 郁男*, 日本法中毒学会 第25年会, 東京 (2006.6) (*九州保福大・薬)
69. カンナビノイドのベントバルビタール睡眠増強作用におけるCB₁受容体の関与- Δ^9 -テトラヒドロカンナビノールとカンナビジオールの比較, 木村 敏行, 高屋 牧子, 山折 大, 舟橋 達也, 渡辺 和人, 山本 郁男*, 日本法中毒学会 第25年会, 東京 (2006.6) (*九州保福大・薬)
70. 大麻主成分テトラヒドロカンナビノールの神経細胞障害作用, 山折 大, 舟橋 達也, 木村 敏行, 千葉 賢三, 渡辺 和人, 山本 郁男*, 日本法中毒学会 第25年会,

東京 (2006.6) (*九州保福大・薬)

71. カルボキシルエステラーゼによる局所麻酔薬in vitro代謝の薬物速度論的解析, 井本 真澄*, 宇佐見 則行*, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本法中毒学会第25年会, 東京 (2006.6) (*九州保福大・薬)
72. 血液凝固促進性と動脈硬化進展を結ぶプロテオグリカンの合成調節, 鍛冶 利幸, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング, 「薬学における動脈硬化研究の新展開」, 京都 (2006.6)
73. 動脈硬化に対する漢方薬の有用性の探究, 劉 園英, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング「薬学における動脈硬化研究の新展開」, 京都 (2006.6)
74. Regulation of proteoglycan synthesis by tumor necrosis factor-alpha in cultured vascular smooth muscle cells, Chika Yamamoto, Tomoko Sato, Yasuyuki Fujiwara, Toshiyuki Kaji, Satellite Symposium of IUBMB "Extracellular Glycomatrix in Health and Disease", 淡路 (2006.6)
75. β -Amyloid proteinによる神経細胞死に対する当帰芍薬散の制御作用機序, 劉 園英, 小島 崇伸, 第57回東洋医学会学術総会, 大阪 (2006.6)
76. CB₁ Receptor mediates the potentiation of pentobarbital-induced sleep by delta-9-tetrahydrocannabinol, 木村 敏行, 高屋 牧子, 山折 大, 舟橋 達也, 渡辺 和人, 山本 郁男*, ICRS 2006 (16th Annual Symposium on the Cannabinoids), ハンガリー, Tihany (2006.6) (*九州保福大・薬)
77. 血管組織に存在するプロテオグリカン—その特性および合成調節—, 鍛冶 利幸, 第7回 Pharmaco-Hematology シンポジウム (特別シンポジウム「血管・リンパ管内皮細胞の機能とその分子メカニズム」), 東京 (2006.6)
78. 培養ヒト冠動脈平滑筋細胞プロテオグリカン合成のアディポネクチンによる調節, 浦野 晶子, 山本 千夏, 藤原 泰之, 鍛冶 利幸, 第7回 Pharmaco-Hematology シンポジウム, 東京 (2006.6)
79. 培養ウシ大動脈平滑筋細胞プロテオグリカン合成に対するTNF- α の調節, 佐藤 友子, 山本 千夏, 藤原 泰之, 石原 知絵, 鍛冶 利幸, 第7回 Pharmaco-Hematology シンポジウム, 東京 (2006.6)

80. 血管内皮細胞に対する重金属の毒性評価とその分子メカニズム, 藤原 泰之, 第33回 日本トキシコロジー学会学術年会, 名古屋 (2006.6)
81. Suzuki-type cross-coupling reaction of pentavalent triphenylantimony dicarboxylate with arylboronic acids, 安池 修之, 秦 薇薇, 菅原 芳之, 栗田 城治, 日本薬学会北陸支部 第114回例会, 金沢 (2006.7)
82. セレノール類および関連化合物の分子内三重結合への環化反応の理論的考察 (1), 鈴木 宏一, 中村 祥子, 澤西 啓之, 指田 春喜, 日本薬学会北陸支部第114回例会, 金沢 (2006.7)
83. テトラヒドロカンナビノールのマウス神経芽細胞腫 C-1300N18 細胞に対する毒性発現機構－カンナビノイド CB₁ 受容体の関与, 山折 大, 舟橋 達也, 木村 敏行, 千葉 賢三, 渡辺 和人, 山本 郁男*, 「内・外環境と生物応答」シンポジウム, 福岡 (2006.7) (*九州保福大・薬)
84. インスリンが誘導する脂肪細胞のグルコース取り込みに対するフラボノイドの効果, 西岡 達雄, 野村 政明, 古林 伸二郎, 宮本 謙一*, 第23回和漢医薬学会大会, 岐阜 (2006.8) (*金沢大・病院薬)
85. Heparan sulfate chain intensifies the cytotoxicity of cadmium to vascular endothelial cells, Yasuyuki Fujiwara, Makoto Mitani, Tomoko Konishi, Naoko Terada, Toshiyuki Kaji, 25th Annual Meeting on Metal Toxicology; CHALK TALK 2006 – Korea/Japan Joint Meeting on Biometals –, Jeju-do, Korea (2006.8)
86. Cytotoxicity of methylmercury in cultured human brain microvascular endothelial cells and pericytes, Takashi Hirooka, Michitaka Tanaka, Yuka Minami, Yasuyuki Fujiwara, Chika Yamamoto, Toshiyuki Kaji, 25th Annual Meeting on Metal Toxicology; CHALK TALK 2006 – Korea/Japan Joint Meeting on Biometals –, Jeju-do, Korea (2006.8)
87. 血管細胞においてシグナル分子として機能する外来性糖鎖, 山本 千夏, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング「糖鎖関連分子による細胞機能の制御とその応用」, 大津 (2006.9)
88. プロテオグリカン分子の合成調節による血管細胞機能の調節, 鍛冶 利幸, 北陸大

学術フロンティア・サテライトミーティング「糖鎖関連分子による細胞機能の制御とその応用」, 大津 (2006.9)

89. Necessity but not sufficiency of neuronal NOS for genipin-induced neuritogenesis in PC12 cells, 千葉 賢三, 山崎 眞津美, 居原 秀*, 第28回日本生物学的精神医学会, 第36回日本神経精神薬理学会, 第49回日本神経化学大会合同年会, 名古屋 (2006.9) (*大阪府立大・理)
90. Genipin induces anti-apoptotic modulation through NO-cGMP pathway in 6-hydroxydopamine-treated cells, 山崎 眞津美, 千葉 賢三, 第28回日本生物学的精神医学会, 第36回日本神経精神薬理学会, 第49回日本神経化学大会合同年会, 名古屋 (2006.9)
91. The cloning of zebrafish purpurin gene and its early expression during optic nerve regeneration, 田中 聖之, 松川 通*, 加藤 聖*, 第28回日本生物学的精神医学会, 第36回日本神経精神薬理学会, 第49回日本神経化学大会合同年会, 名古屋 (2006.9) (*金沢大院・医)
92. The protective effect of Toki-Shakuyaku-San (TJ23) on β -amyloid protein-induced apoptosis in PC12 cells, Yuan Ying Liu, The 3rd International Congress of Traditional Medicine, Toronto, Canada (2006.9)
93. 大麻主成分テトラヒドロカンナビノールのマウスマクロファージ様細胞に対するCB₂受容体依存的な毒性発現へのMAPKの関与, 石井 浩介, 山折 大, 阿倍 賀奈子, 舟橋 達也, 木村 敏行, 千葉 賢三, 渡辺 和人, 山本 郁男*, フォーラム2006 衛生薬学・環境トキシコロジー, 東京 (2006.10) (*九州保福大・薬)
94. 大麻吸煙抽出物の変異原性, 舟橋 達也, 松澤 直樹, 山折 大, 木村 敏行, 山本 郁男*, 渡辺 和人, フォーラム2006 衛生薬学・環境トキシコロジー, 東京 (2006.10) (*九州保福大・薬)
95. アディポネクチンによる冠動脈平滑筋細胞プロテオグリカン合成の制御, 浦野 晶子, 山本 千夏, 藤原 泰之, 鍛冶 利幸, フォーラム2006 衛生薬学・環境トキシコロジー, 東京 (2006.10)
96. 大動脈平滑筋細胞においてTNF- α はバーシカン合成を調節する, 佐藤 友子, 山本 千夏, 藤原 泰之, 鍛冶 利幸, フォーラム2006 衛生薬学・環境トキシコロジー,

東京 (2006.10)

97. Synthesis of asymmetric biaryls by use of boronic acids and pentavalent organoantimony compound as pseudo-halide, 安池 修之, 秦 薇薇, 菅原 芳之, 栗田 城治, 平成18年度有機合成北陸セミナー, 富山 (2006.10)
98. ヒトCYP1A1, CYP1A2及びCYP1B1の酵素活性に対する主要カンナビノイドの阻害機構の解明, 串原 美佳, 山折 大, 舟橋 達也, 木村 敏行, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本薬学会北陸支部第115回例会, 富山 (2006.11) (*九州保福大・薬)
99. α -エチニルベンジルセレニド類の位置選択的親電子環化反応, 鈴木 宏一, 中村 祥子, 澤西 啓之, 指田 春喜, 第32回複素環化学討論会, 長崎 (2006.11)
100. コンピュータシミュレーションによる genipin 関連化合物 とNO合成酵素のテトラヒドロbiopterin結合領域との相互作用解析, 千葉 賢三, 山崎 眞津美, 鈴木 宏一, 澤西 啓之, 第25回メディシナルケミストリーシンポジウム, 名古屋 (2006.11)
101. 主要カンナビノイドによるヒトCYP1ファミリーの酵素活性の阻害, 串原 美佳, 山折 大, 舟橋 達也, 木村 敏行, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 第21回日本薬物動態学会年会, 東京 (2006.11) (*九州保福大・薬)
102. ブチリルコリンエステラーゼ及び赤血球アリールエステラーゼはヒト血液中のガベキサート加分解に関与する, 山折 大, 串原 美佳, 藤山 信弘, 舟橋 達也, 木村 敏行, 山本 郁男*, 松村 謙二**, 織田 実**, 渡辺 和人, 第21回日本薬物動態学会年会, 東京 (2006.11) (*九州保福大・薬, **鳥居薬品)
103. グレープフルーツおよび日向夏ヒトおよびげっ歯類肝ミクロソームにおけるエステラーゼ阻害作用, 井本 真澄*, 宇佐見 則行*, 山本 郁男*, 細井 信造, 佐久嶋 明世, 渡辺 和人, 第21回日本薬物動態学会年会, 東京 (2006. 11) (*九州保福大・薬)
104. Inhibitory effect of tetrandrine, a constituent of *Stephania Tetrandra* S. Moore, on advanced glucation endproduct-induced neovascularization of cultured choroidal explants in streptozotocin-diabetic rat, Shinjiro Kobayashi, Masaaki Nomura, Minoru Kikuchi, Tatsuo Nishioka, International Symposium on Integrated Pharmacy by University Specialization Supporting Program, Kyung

Hee University, Seoul, Korea (2006.12)

105. アンチモン（V）化合物を擬ハロゲン化物として利用したアリールホウ酸類との Base-free クロスカップリング反応, 安池 修之, 秦 薇薇, 菅原 芳之, 栗田 城治, 第32回反応と合成の進歩シンポジウム, 広島 (2006.12)
106. 1,5-アザスチボシンを用いた芳香族ニトロ化合物の触媒的還元反応, 角澤 直紀, 菅原 芳之, 安池 修之, 栗田 城治, 第32回反応と合成の進歩シンポジウム, 広島 (2006.12)
107. 有機アンチモン類からホウ酸エステル類への金属交換反応, 安池 修之, 中田 和秀*, 秦 薇薇, 鍛冶 利幸, 栗田 城治, 第33回有機典型元素化学討論会, 福岡 (2006.12) (*法大・自然セ)
108. 現代病と漢方（特別講演）, 劉 園英, 石川県病院薬剤師会平成18年度第2回学術研修会, 金沢 (2007.2)
109. カドミウムの血管毒性発現の分子機構, 藤原 泰之, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング「食品汚染金属の毒性とその防御の分子メカニズム」, 仙台 (2007.2)
110. カドミウムの血管毒性を増強する因子としてのヘパラン硫酸糖鎖, 鍛冶 利幸, 平成18年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「化学物質の毒性」, 金沢 (2007.3)
111. カンナビノイドによる代謝的相互作用及び細胞毒性発現の分子機構, 渡辺 和人, 平成18年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「化学物質の毒性」, 金沢 (2007.3)
112. 5価有機アンチモン化合物とアリールホウ酸類とのクロスカップリング反応, 秦 薇薇, 安池 修之, 菅原 芳之, 川幡 正俊*, 山口 健太郎*, 栗田 城治, 平成18年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「化学物質の毒性」, 金沢 (2007.3) (*徳島文理大香川・薬)
113. Genipinの神経栄養因子様作用：NO合成酵素の重要性, 千葉 賢三, 山崎 眞津美, 鈴木 宏一, 田中 聖之, 澤西 啓之, 平成18年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「化学物質の毒性」, 金沢 (2007.3)

114. インスリンが誘導する脂肪細胞のグルコース取り込みに対するフラボノイドの効果, 野村 政明, 西岡 達雄, 古林 伸二郎, 平成18年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「化学物質の毒性」, 金沢 (2007.3)
115. 高血圧症に対する漢方薬の有用性～東洋医薬学に立脚した治療・予防戦略～, 劉園英, 平成18年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「化学物質の毒性」, 金沢 (2007.3)
116. 血管平滑筋細胞プロテオグリカン合成に対するアディポサイトカイン (TNF- α およびアディポネクチン) の作用, 山本 千夏, 佐藤 友子, 浦野 晶子, 藤原 泰之, 鍛冶 利幸, 平成18年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「化学物質の毒性」, 金沢 (2007.3)
117. 1,9-Dialkyl ならびに 1,3,9-Trialkylxanthine誘導体の合成, 鈴木 宏一, 澤西 啓之, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3)
118. プラバスタチンによる血管内皮細胞プロテオグリカン合成の制御, 山本 千夏, 宮内 靖世, 藤原 泰之, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3)
119. ビスマスは亜ヒ酸による血管内皮細胞プロテオグリカン合成の阻害作用を軽減する, 藤原 泰之, 稲垣 孝行, 山本 千夏, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3)
120. 脳特異的プロテオグリカン, ニューログリカンCの細胞外領域切り出し機構の解析, 周尾 卓也, 丸山 浩代, 青野 幸子*, 中西 圭子*, 時田 義人*, 藤原 泰之, 山本 千夏, 大平 敦彦*, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (*愛知県コロニー研)
121. ヒト脳微小血管内皮細胞に対するメチル水銀の傷害性と増殖阻害, 廣岡 孝志, 南有香, 藤原 泰之, 山本 千夏, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3)
122. 動脈硬化進展の鍵分子プロテオグリカン—その特性および合成調節—, 浦野 晶子, 山本 千夏, 藤原 泰之, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第127年会 (院生シンポジウム「次世代の動脈硬化研究を担う若者たちの集い～領域を超えた交流による新たな展開～」), 富山 (2007.3)
123. 血管平滑筋細胞におけるプロテオグリカン合成の調節, 佐藤 友子, 山本 千夏,

藤原 泰之, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第127年会 (院生シンポジウム「糖鎖関連分子による細胞機能の制御とその応用」), 富山 (2007.3)

124. トロンボスポンジン-1による血管内皮細胞プロテオグリカンの代謝調節, 寺田 奈緒子, 山本 千夏, 藤原 泰之, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3)
125. 血管内皮細胞のプロテオグリカン合成を誘導する有機アンチモン化合物の探索, 小西 智子, 藤原 泰之, 山本 千夏, 安池 修之, 角澤 直紀, 秦 薇薇, 栗田 城治, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3)
126. 大麻粗抽出物投与によるラット副腎Steroidogenic Acute Regulatory (StAR) Protein発現量の変動, 三澤 宏一郎, 舟橋 達也, 山折 大, 木村 敏行, 山本 郁男*, 山崎 岳**, 渡辺 和人, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (*九州保福大・薬, **広島大)
127. カンナビノイドCBD及びCBNのマクロファージに対する細胞毒性発現へのCB₁及びCB₂受容体の関与, 石井 浩介, 山折 大, 舟橋 達也, 木村 敏行, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (*九州保福大・薬)
128. カンナビノイドによるCYP2C9活性阻害に及ぼす遺伝子多型の影響, 申原 美佳, 山折 大, 舟橋 達也, 木村 敏行, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (*九州保福大・薬)
129. マウスカンナビノイドCB₁及びCB₂受容体の発現組織分布と発現量の比較, 山折 大, 岡田 光, 舟橋 達也, 木村 敏行, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (*九州保福大・薬)
130. 日向夏およびグレープフルーツによるヒト肝および小腸エステラーゼ活性の阻害作用, 井本 真澄*, 宇佐見 則行*, 山本 郁男*, 細井 信造*, 佐久嶋 明世, 渡辺 和人, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (*九州保福大・薬)
131. PDE4阻害活性を標的としたimidazo[2,1-i]purine化合物の脂肪分解作用, 野村政明, 鈴木 宏一, 澤西 啓之, 森谷 修三*, 菊池 穂, 高屋 牧子, Ma Wenjie, 宮本 謙一**, 西岡 達雄, 古林 伸二郎, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (*福井大・看護, **金沢大・病院薬)
132. マウス骨髓細胞初代培養系における tetrandrine の破骨細胞分化抑制作用, 西岡

- 達雄, 橘 麻未, 野村 政明, 古林 伸二郎, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3)
133. 粉防已成分 Fangchinoline によるストレプトゾトシン糖尿病マウスの血糖降下作用における黄耆成分の複合効果, Ma Wenjie, 野村 政明, 西岡 達雄, 古林 伸二郎, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3)
134. 23-Hydroxyursolic acid の細胞増殖抑制機構の検討, 高屋 牧子, 野村 政明, 西岡 達雄, Lee Kyung-Tae*, 古林 伸二郎, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (*慶熙大・薬)
135. ゲニピンの神経型NO合成酵素活性化作用: コンピュータシミュレーションによる解析, 千葉 賢三, 山崎 眞津美, 鈴木 宏一, 澤西 啓之, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3)
136. セコイリドイド類の神経突起誘導作用, 山崎 眞津美, 千葉 賢三, 菊地 正史*, 菊地 正雄**, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (*東北大・病院薬, **東北大薬科大・薬)
137. 有機アンチモン化合物の機能解明 1: アリールホウ酸類とのクロスカップリング反応, 秦 薇薇, 安池 修之, 菅原 芳之, 川幡 正俊*, 山口 健太郎*, 栗田 城治, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (*徳島文理大香川・薬)
138. 有機アンチモン化合物の機能解明 2: エステル結合を持つ超原子価化合物の合成とその構造解析, 安池 修之, 王 軒, 川幡 正俊*, 山口 健太郎*, 栗田 城治, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (*徳島文理大香川・薬)
139. 有機アンチモン化合物の機能解明 3: ホウ酸エステル類への金属交換反応, 安池 修之, 中田 和秀*, 秦 薇薇, 鍛冶 利幸, 栗田 城治, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (*法大・自然セ)
140. 有機アンチモン化合物の機能解明 4: フェロセン骨格から成る光学活性有機Sb化合物の合成, 安池 修之, 萩原 淳一, 栗田 城治, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3)
141. 脳特異的プロテオグリカン, ニューログリカンCの細胞外領域切り出し機構の解析, 周尾 卓也, 丸山 浩代, 青野 幸子*, 中西 圭子*, 藤原 泰之**, 山本 千夏, 大平 敦彦*, 鍛冶 利幸, 第39回結合組織学会学術大会・第54回マトリックス研究

会大会合同学術集会，東京（2007.5）（*愛知県コロニー研，**愛知学院大・薬）

142. 鉛による血管内皮細胞パールカン合成の阻害，藤原 泰之*，山本 千夏，鍛冶 利幸，第39回結合組織学会学術大会・第54回マトリックス研究会大会合同学術集会，東京（2007.5）（*愛知学院大・薬）
143. 高血圧症に対する漢方薬の有用性～東洋医薬学に立脚した治療・予防戦略～，劉園英，第8回Pharmaco-Hematologyシンポジウム，金沢（2007.6）
144. アディポネクチンによる血管平滑筋細胞デコリン合成の誘導，山本 千夏，浦野 晶子，藤原 泰之*，鍛冶 利幸，第8回Pharmaco-Hematologyシンポジウム，金沢（2007.6）（*愛知学院大・薬）
145. TNF- α による血管平滑筋細胞プロテオグリカン合成の調節，山本 千夏，佐藤 友子，藤原 泰之*，鍛冶 利幸，第8回Pharmaco-Hematologyシンポジウム，金沢（2007.6）（*愛知学院大・薬）
146. 血管内皮細胞に対して選択的に細胞毒性を発現する有機ビスマス化合物，藤原 泰之*，深谷 允，山本 千夏，安池 修之，栗田 城治，鍛冶 利幸，第 8 回Pharmaco-Hematologyシンポジウム，金沢（2007.6）（*愛知学院大・薬）
147. ホモシステインによる血管平滑細胞プロテオグリカン合成の阻害，藤原 泰之*，三上 千尋，永井 倫典，山本 千夏，廣岡 孝志，鍛冶 利幸，第 8 回Pharmaco-Hematologyシンポジウム，金沢（2007.6）（*愛知学院大・薬）
148. ヒト脳微小血管内皮細胞の維持に対するメチル水銀の毒性，廣岡 孝志，藤原 泰之*，山本 千夏，安武 章**，鍛冶 利幸，第8回Pharmaco-Hematologyシンポジウム，金沢（2007.6）（*愛知学院大・薬，**国立水俣研）
149. 血管内皮細胞のヘパラン硫酸プロテオグリカンの合成を促進する有機アンチモン化合物，小西 智子，藤原 泰之*，山本 千夏，安池 修之，角澤 直紀，秦 薇薇，栗田 城治，鍛冶 利幸，第8回Pharmaco-Hematologyシンポジウム 金沢（2007.6）（*愛知学院大・薬）
150. トロンボスポンジン-1による血管内皮細胞プロテオグリカンの代謝調節，寺田 奈緒子，山本 千夏，藤原 泰之*，鍛冶 利幸，第8回Pharmaco-Hematologyシンポジウム，金沢（2007.6）（*愛知学院大・薬）

151. 血管内皮細胞のプロテオグリカン合成を誘導する環状有機アンチモン化合物, 藤原 泰之*, 北陸大学学術フロンティアサテライトミーティング「有機金属化合物の合成と生物活性」, 長浜 (2007.6) (*愛知学院大・薬)
152. 高原子価有機アンチモン化合物の特性を利用したクロスカップリング反応, 栗田城治 (共同研究者: 安池 修之), 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング「有機金属化合物の合成と生物活性」, 長浜 (2007.6)
153. 難治性皮膚炎治療に対する温清飲と十味敗毒湯の効果, 劉 園英, 竹村 修*, 第58回日本東洋医学会学術総会, 広島 (2007.6) (*金沢映寿会みらい病院)
154. 大麻主成分テトラヒドロカンナビノール, カンナビジオール, カンナビノールはヒトCYP1ファミリーの酵素活性を分子種選択的に阻害する, 串原 美佳, 山折 大, 舟橋 達也*, 木村 敏行, 山本 郁男**, 渡辺 和人, 日本法中毒学会第26年会, 延岡 (2007.6) (*松山大・薬, **九州保福大・薬)
155. 大麻幻覚成分テトラヒドロカンナビノールのマクロファージに対する毒性発現のメカニズム—カンナビノイドCB₂受容体の関与, 石井 浩介, 山折 大, 舟橋 達也*, 木村 敏行, 千葉 賢三, 山本 郁男**, 渡辺 和人, 日本法中毒学会第26年会, 延岡 (2007.6) (*松山大・薬, **九州保福大・薬)
156. 大麻粗抽出物投与によるラット副腎ステロイド生合成への影響, 三澤 宏一郎, 舟橋 達也*, 山折 大, 木村 敏行, 山本 郁男**, 山崎 岳***, 渡辺 和人, 日本法中毒学会第26年会, 延岡 (2007.6) (*松山大・薬, **九州保福大・薬, ***広島大)
157. リアルタイムPCR法を用いたマウスカンナビノイドCB₁及びCB₂受容体mRNAの定量法の開発, 山折 大, 岡田 光, 舟橋 達也*, 木村 敏行, 山本 郁男**, 渡辺 和人, 日本法中毒学会第26年会, 延岡 (2007.6) (*松山大・薬, **九州保福大・薬)
158. Δ^9 -テトラヒドロカンナビノールのフルニトラゼパム睡眠増強メカニズム, 木村 敏行, 舟橋 達也*, 山折 大, 宇佐見 則行**, 山本 郁男**, 渡辺 和人, 日本法中毒学会第26年会, 延岡 (2007.6) (*松山大・薬, **九州保福大・薬)
159. Potentiation of benzodiazepine-induced sleep by delta-9-tetrahydrocannabinol, Toshiyuki Kimura, Tatsuya Funahashi*, Satoshi Yamaori, Noriyuki Usami**, Ikuo Yamamoto**, Kazuhito Watanabe, 17th Annual Symposium on the Cannabinoids (ICRS, International Cannabinoid Research Society), Saint-

Saveur, Canada (2007.6) (*松山大・薬, **九州保福大・薬)

160. Cytotoxic effect of tetrahydrocannabinol on mouse neuroblastoma cells, Satoshi Yamaori, Hikaru Okada, Tatsuya Funahashi*, Toshiyuki Kimura, Kenzo Chiba, Ikuo Yamamoto**, Kazuhito Watanabe, 17th Annual Symposium on the Cannabinoids (ICRS, International Cannabinoid Research Society), Saint-Saveur, Canada (2007.6) (*松山大・薬, **九州保福大・薬)
161. Mechanism of tetrahydrocannabinol-induced cytotoxicity in mouse J774-1 macrophages: involvement of CB₂ receptor and p38 MARK, Hirotsuke Ishii, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi*, Toshiyuki Kimura, Kenzo Chiba, Ikuo Yamamoto**, Kazuhito Watanabe, 17th Annual Symposium on the Cannabinoids (ICRS, International Cannabinoid Research Society), Saint-Saveur, Canada (2007.6) (*松山大・薬, **九州保福大・薬)
162. Cytochrome P450 isoform-selective inhibition of major cannabinoids, delta-9-tetrahydrocannabinol, cannabidiol and cannabinol, Mika Kushihara, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi*, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto**, Kazuhito Watanabe, 17th Annual Symposium on the Cannabinoids (ICRS, International Cannabinoid Research Society), Saint-Saveur, Canada (2007.6) (*松山大・薬, **九州保福大・薬)
163. Inhibition mechanism of rat testis 3 β -hydroxysteroid dehydrogenase/ Δ^5 - Δ^4 isomerase activity by cannabinoids, Koichiro Misawa, Tatsuya Funahashi*, Satoshi Yamaori, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto**, Kazuhito Watanabe, 17th Annual Symposium on the Cannabinoids (ICRS, International Cannabinoid Research Society), Saint-Saveur, Canada (2007.6) (*松山大・薬, **九州保福大・薬)
164. 重金属と血管病変, 鍛冶 利幸, 第34回日本トキシコロジー学会学術年会 シンポジウム「環境汚染物質と生活習慣病」, 東京 (2007.6)
165. シトクロムP450 3A4 (CYP3A4) とUDP-グルクロン酸転移酵素2B7の相互作用に関与するCYP3A4の領域とその役割, 石井祐次*, 竹田 修三, Arief Nurrochmad*, Peter I. Mackenzie**, 永田 清***, 山添 康****, 小栗 一太*****, 山田 英之*, 第 34 回日本トキシコロジー学会学術年会, 東京 (2007.6) (*九大院・薬, **フリンダース大・医, ***東北薬大, ****東北大院・薬, *****九州保福大・薬)

166. 重金属の血管毒性（特別講演），鍛冶 利幸，摂南大学大学院セミナー，大阪（2007.7）
167. Triarylantimony diacetates as pseudo-halides in base-free cross-coupling reaction with organic boron reagents, 秦 薇薇, 安池 修之, 菅原 芳之, 川幡 正俊*, 山口 健太郎*, 栗田 城治, 日本薬学会北陸支部第116回例会, 金沢（2007.7）（*徳島文理大香川・薬）
168. 光学活性1- (Diphenylphosphano) -2-[di (p-tolyl) stibano]ferroceneの合成, 安池 修之, 萩原 淳一, 川幡 正俊*, 山口 健太郎*, 栗田 城治, 日本薬学会北陸支部第116回例会, 金沢（2007.7）（*徳島文理大香川・薬）
169. 銅触媒を用いないトリフェニルアンチモンジアセテートの菌頭型カップリング反応, 安池 修之, 王 軒, 秦 薇薇, 栗田 城治, 日本薬学会北陸支部第116回例会, 金沢（2007.7）
170. 動脈硬化に対する漢方薬の有用性の探求（教育講演），劉 園英，平成19年度日本東洋医学会北陸支部夏季講演会，福井（2007.7）
171. Structure-activity relationship of flavonoids for inhibition of insulin-stimulated glucose uptake in mouse MC3T3-G2/PA6 adipocytes, Masaaki Nomura, Ken-ichi Miyamoto*, Shinjiro Kobayashi, 2007 International Symposium on NanoBioSciences. Seoul Korea（2007.8）（*金沢大・病院薬）
172. A novel transmetallation of triarylstibanes into arylboronate: boro-induced ipso-deantimonation and its theoretical calculation, Shuji Yasuike, Kazuhide Nakata*, Weiwei Qin, Toshiyuki Kaji, Jyoji Kurita, 14th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 14), 奈良（2007.8）（*法大・自然セ）
173. Palladium-catalyzed cross-coupling reaction of triarylantimony diacetates with arylboronic acids, Shuji Yasuike, Weiwei Qin, Masatoshi Kawahata*, Yoshiyuki Sugawara, Kentaro Yamaguchi*, Jyoji Kurita, 14th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 14), 奈良（2007.8）（*徳島文理大香川・薬）
174. ヒト脳微小血管内皮細胞に対するメチル水銀の毒性発現，廣岡 孝志，第26回チョ

ークトーク「生体と金属に関する研究会」，つくば（2007.8）

175. Experimental studies on the pharmacodynamic effects of *Orobancha cumana* as a novel medicinal resource, 劉 東春, 王 芳*, 劉 園英, 殷 軍*, 李 玉山*, 王 東*, 崔 征*, 第24回和漢医薬学会大会, 富山（2007.9）（*瀋陽薬科大）
176. ストレプトゾトシン糖尿病マウスの血中インスリン低下に対する粉防已成分 Fangchinoline と黄耆成分 Formononetin の複合作用, Ma Wenjie, 野村 政明, 西岡（高橋）達雄, 古林 伸二郎, 第24回和漢医薬学会大会, 富山（2007.9）
177. Neurotrophic effect of genipin: neuroprotective action on tunicamycin-induced cytotoxicity in neuro2a cells, 田中 聖之, 山崎 眞津美, 千葉 賢三, 第30回日本神経科学大会, 第50回日本神経化学学会大会, 第17回日本神経回路学会大会, 合同大会, 横浜（2007.9）
178. Computer simulation of target molecule of genipin with neurotrophic factor-like activity: Interaction of genipin-related compounds and tetrahydrobiopterin binding domain in neuronal NO synthase, 千葉 賢三, 山崎 眞津美, 鈴木 宏一, 澤西 啓之, 第30回日本神経科学大会, 第50回日本神経化学学会大会, 第17回日本神経回路学会大会, 合同大会, 横浜（2007.9）
179. Protective effect of genipin on the typical ER stress-induced cell death, 山崎 眞津美, 千葉 賢三, 第30回日本神経科学大会, 第50回日本神経化学学会大会, 第17回日本神経回路学会大会, 合同大会, 横浜（2007.9）
180. 大麻主成分カンナビノイドによるヒト薬物代謝酵素シトクロムP450の阻害作用とその分子機構, 山折 大（渡辺 和人 研究室）, 北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド - 毒変じて薬となる? - （大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」, 金沢（2007.9）
181. カンナビノイド及び関連化合物のCB₁受容体結合における構造活性相関, 木村 敏行（渡辺 和人 研究室）, 北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド - 毒変じて薬となる? - （大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」, 金沢（2007.9）
182. 大麻摂取が疑われた変死体中からの多剤乱用薬物検出例, 寺田 賢*, 木村 敏行, 渡辺 和人, 山本 郁男**, 的場 梁次***, 黒崎 久仁彦*, 北陸大学学術フロン

ティア公開シンポジウム「カンナビノイド－毒変じて薬となる？－（大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」，金沢（2007.9）（*東邦大・医，**九州保福大・薬，***阪大院）

183. Δ^9 -テトラヒドロカンナビノールによるヒト乳がん細胞（MCF-7）増殖促進作用：カンナビノイド受容体非依存的機構の可能性，竹田 修三，山折 大，木村 敏行，山本 郁男*，渡辺 和人，北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド－毒変じて薬となる？－（大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」，金沢（2007.9）（*九州保福大・薬）
184. 大麻主成分テトラヒドロカンナビノールのマクロファージに対する毒性発現機構－CB₂受容体及び MAPKの関与，石井 浩介，山折 大，舟橋 達也*，木村 敏行，山本 郁男**，渡辺 和人，北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド－毒変じて薬となる？－（大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」，金沢（2007.9）（*松山大・薬，**九州保福大・薬）
185. CYP2C9 活性に対するカンナビノイドの阻害と遺伝子多型の重要性，串原 美佳，山折 大，舟橋 達也*，木村 敏行，山本 郁男**，渡辺 和人，北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド－毒変じて薬となる？－（大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」，金沢（2007.9）（*松山大・薬，**九州保福大・薬）
186. 大麻抽出物投与のラット副腎Steroidogenic Acute Regulatory（StAR）タンパク質発現量への影響，三澤 宏一郎，舟橋 達也*，山折 大，木村 敏行，山本 郁男**，山崎 岳***，渡辺 和人，北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド－毒変じて薬となる？－（大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」，金沢（2007.9）（*松山大・薬，**九州保福大・薬，***広島大）
187. カンナビノイドをリード化合物とする創薬－ハロゲン置換カンナビノイドを中心として，渡辺 和人，館岡 裕二*，吉田 久俊，奥田 武詩，山折 大，木村 敏行，宇佐見 則行*，山本 郁男*，北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド－毒変じて薬となる？－（大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」，金沢（2007.9）（*イスクラ産業，**九州保福大・薬）
188. 我が国における大麻乱用の歴史－過去60年間，渡辺 和人，山折 大，舟橋 達也*，木村 敏行，宇佐見 則行**，井本 真澄**，山本 郁男**，北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド－毒変じて薬となる？－（大麻成分カンナ

ビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで)」, 金沢 (2007.9) (*松山大・薬, **九州保福大・薬)

189. メチル水銀は傷害した培養脳微小血管内皮細胞層の修復をFGF-2システムの抑制を通じて阻害する, 廣岡 孝志, 藤原 泰之*, 山本 千夏, 井上 頌子, 南 有香, 新開 泰弘, 安武 章**, 鍛冶 利幸, メタロチオネインおよびメタロバイオサイエンス研究会2007, 大阪 (2007.9) (*愛知学院大・薬, **国立水保研)
190. お茶と健康, 劉 園英, 第15回TOYAMA植物フォーラム, 富山 (2007.10)
191. Significance of CYP2C9 genetic polymorphism in inhibitory effects of major cannabinoids, Mika Kushihara, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi,* Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto**, Kazuhito Watanabe, 8th International ISSX Meeting, 仙台 (2007.10) (*松山大・薬, **九州保福大・薬)
192. Nafamostat is efficiently hydrolyzed by human liver cytosolic enzyme: involvement of long chain acyl-CoA hydrolase, Satoshi Yamaori, Eriko Ukena, Nobuhiro Fujiyama, Tatsuya Funahashi*, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto**, Tohru Ohshima, Kenji Matsumura, Minoru Oda, Kazuhito Watanabe, 8th International ISSX Meeting, 仙台, (2007.10) (*松山大・薬, **九州保福大・薬)
193. Interaction of cytochrome P450 3A4 and UDP-Glucuronosyltransferase 2B7: Possible involvement of a region Located in the J-Helix of CYP3A4 in the interaction, Yuji Ishii*, Shuso Takeda, Arief Nurrochmad*, Yûki Iwamoto*, Yuji Ito**, Peter I. Mackenzie***, Kiyoshi Nagata****, Yasushi Yamazoe*****, Kazuta Oguri*****, Hideyuki Yamada*, 8th International ISSX Meeting, 仙台, (2007.10) (*九大院・薬, **鹿児島大, ***フリンダース大・医, ****東北薬大, *****東北大院・薬, *****九州保福大・薬)
194. β -Amyloid蛋白による神経細胞死における当帰芍薬散の制御作用に関する研究, 劉 園英, 平成19年度日本東洋医学会北陸支部奨励賞受賞講演, 富山 (2007.10)
195. (S)-(Ferrocenyl)(p-Tolyl) Sulfoxideを利用した新規光学活性Sb誘導体の合成, 安池 修之, 萩原 淳一, 栗田 城治, 平成19年度有機合成北陸セミナー, 金沢 (2007.10)
196. 銅触媒および塩基を必要としないトリフェニルアンチモンジアセテートを用いた

菌頭型カップリング反応, 安池 修之, 王 軒, 秦 薇薇, 栗田 城治, 平成19年度有機合成北陸セミナー, 金沢 (2007.10)

197. 亜ヒ酸ナトリウムによる血管平滑筋細胞プロテオグリカン合成の阻害, 藤原 泰之*, 山本 千夏, 廣岡 孝志, 寺田 奈緒子, 佐藤 雅彦*, 鍛冶 利幸, フォーラム2007 衛生薬学・環境トキシコロジー, 大阪 (2007.11) (*愛知学院大・薬)
198. メチル水銀による傷害内皮細胞層の修復阻害: FGF-2系およびVEGF系は関与するの?, 廣岡 孝志, 藤原 泰之*, 山本 千夏, 井上 頌子, 新開 泰弘, 安武 章**, 鍛冶 利幸, フォーラム2007 衛生薬学・環境トキシコロジー, 大阪 (2007.11) (*愛知学院大・薬, **国立水保研)
199. 血管内皮細胞においてヘパラン硫酸プロテオグリカンの大型分子種パルカンの合成を誘導する有機アンチモン化合物, 小西 智子, 藤原 泰之*, 山本 千夏, 安池 修之, 角澤 直紀, 秦 薇薇, 栗田城治, 鍛冶 利幸, フォーラム2007 衛生薬学・環境トキシコロジー, 大阪 (2007.11) (*愛知学院大・薬)
200. 血管内皮細胞プロテオグリカンの代謝調整因子としてのトロンボスポンジン-1, 寺田 奈緒子, 山本 千夏, 藤原 泰之*, 鍛冶 利幸, フォーラム2007 衛生薬学・環境トキシコロジー, 大阪 (2007.11) (*愛知学院大・薬)
201. ヒト乳がん細胞 (MCF-7) 増殖に与える Δ^9 -テトラヒドロカンナビノールの影響-カンナビノイド受容体を介さない新規機構の可能性, 竹田 修三, 山折 大, 木村 敏行, 山本 郁男*, 渡辺 和人, フォーラム2007 衛生薬学・環境トキシコロジー, 大阪 (2007.11) (*九州保福大・薬)
202. シトクロム P450 3A4 (CYP3A4) と UGT1A サブファミリーの相互作用について, 追崎 俊也*, 竹田 修三, 西村 嘉雄*, 田浦 太志*, 森元 聡*, 生城 真一**, Peter I. Mackenzie**, 永田 清****, 山添 康****, 石井 祐次*, 山田 英之*, フォーラム2007 衛生薬学・環境トキシコロジー, 大阪 (2007.11) (*九大院・薬, **富山大・工, ***フリンダース大・医, ****東北薬大, *****東北大院・薬)
203. 有機アンチモン化合物からのアリアルホウ酸誘導体への交換とクロスカップリング反応への応用, 安池 修之, 秦 薇薇, 中田 和秀*, 鍛冶 利幸, 栗田 城治, 第33回反応と合成の進歩シンポジウム, 長崎 (2007.11) (*法大・自然セ)
204. フェロセン官能基を持つ新規光学活性有機Sb化合物の合成, 安池 修之, 萩原 淳

- 一, 川幡 正俊*, 山口 健太郎*, 栗田 城治, 第33回反応と合成の進歩シンポジウム, 長崎 (2007.11) (*徳島文理大香川・薬)
205. ハーブティーの便通促進効果と安全性, 上馬場 和夫*, 池田 商洋**, 劉 園英, 大谷 千晴**, 大野 智***, 新井 隆成****, 林 浩孝*****, 許 鳳浩*, 小川 弘子*, 鈴木 信孝***, 第10回日本補完・代替医療学会学術集会, 福岡 (2007.11) (*富山国際伝統医学セ, **池田病院, ***金大院, ****金大医・病, *****金大ベンチャー・ビジネス・ラボ)
206. ハーブティーの冷え症改善効果と安全性, 上馬場 和夫*, 池田 商洋**, 劉 園英, 大谷 千晴**, 大野 智***, 新井 隆成****, 林 浩孝*****, 許 鳳浩*, 小川 弘子*, 鈴木 信孝***, 第10回日本補完・代替医療学会学術集会, 福岡 (2007.11) (*富山国際伝統医学セ, **池田病院, ***金大院, ****金大医・病, *****金大ベンチャー・ビジネス・ラボ)
207. Sb (V) を用いた銅触媒を必要としない菌頭型カップリング反応, 安池 修之, 王 軒, 秦 薇薇, 栗田 城治, 日本薬学会北陸支部第117回例会, 金沢 (2007.11)
208. (S_{Fc})-1-[Di (p-tolyl) stibano]-2-[2-di (p-tolyl) stibanophenyl]ferroceneの合成とその不斉配位子能, 安池 修之, 萩原 淳一, 檀上 博史*, 山口 健太郎*, 栗田 城治, 日本薬学会北陸支部第117回例会, 金沢 (2007.11) (*徳島文理大香川・薬)
209. 大麻幻覚成分テトラヒドロカンナビノールのマクロファージに対する毒性発現のメカニズム—カンナビノイドCB₂受容体の関与, 石井 浩介, 山折 大, 木村 敏行, 竹田 修三, 千葉 賢三, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本薬学会北陸支部第117回例会, 金沢 (2007.11) (*九州保福大・薬)
210. The protective effects of Toki-shakuyaku-san (TJ-23) on β -amyloid protein (β 40) - induced apoptosis in PC12 cells, Yuan Ying Liu, The 4th International Congress of Traditional Medicine, Singapore (2007.11)
211. Metabolic interactions of cannabinoids with steroid hormones, Kazuhito Watanabe, The Convention of the Korean Society of Applied Pharmacology, Research Trends in Metabolomics, Seoul, Korea (2007.11)
212. 新世代の金属毒性学, 鍛冶 利幸, 国立水俣病総合研究センター招待講演, 水俣 (2007.12)

213. genipin の神経栄養因子作用：PC12h 細胞に対する遺伝子発現調節，千葉 賢三，山崎 眞津美，第30回日本分子生物学会年会，第80回日本生化学会大会，合同大会，横浜（2007.12）
214. genipin の神経栄養因子作用：小胞体ストレス障害に対する NO を介した防護効果，山崎 眞津美，千葉 賢三，第30回日本分子生物学会年会，第80回日本生化学会大会，合同大会，横浜（2007.12）
215. Role of Nrf2/Keap1 system in protection against arsenic-induced cytotoxicity, Yasuhiro Shinkai, Daigo Sumi*, Keiko Taguchi**, Masayuki Yamamoto**, Toshiyuki Kaji, Yoshito Kumagai*, The 2nd JST-ERATO Yamamoto Environmental Response Project International Symposium, つくば（2007.12）（*筑波大院・人間総合科学，**東北大院・医）
216. Development of drug targeting to bone, Tatsuo Takahashi-Nishioka, 第5回北陸大学・キョンヒ大学校・瀋陽薬科大学合同シンポジウム，金沢（2008.2）
217. 骨への薬物輸送による新規創薬，高橋 達雄，横川 弘一*，戸松 俊治**，野村 政明，古林 伸二郎，宮本 謙一*，第81回薬理学会年会，横浜（2008.3）（*金沢大・病院薬，**セントルイス大）
218. ストレプトゾトシン糖尿病動物の高血糖と脈絡膜血管新生異常に対する漢方薬粉防已成分 Fangchinoline と Tetrandrine の抑制作用機序，古林 伸二郎，平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」，金沢（2008.3）
219. Iridoid 化合物，genipin，およびその関連化合物の神経栄養因子作用，千葉 賢三，平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」，金沢（2008.3）
220. コモンマーモセットにおけるメチル水銀毒性，安武 章（国立水保研），平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」，金沢（2008.3）
221. 血管構成細胞のプロテオグリカン合成に対する亜ヒ酸の阻害作用，藤原 泰之（愛知学院大・薬），平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」，金沢（2008.3）

222. 計算化学を基盤とした反応解析・合成設計・物性予測への挑戦, 内山 真伸 (理研), 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
223. 空気雰囲気下で行う 5 価有機アンチモン化合物を利用した効率的園頭型反応, 安池 修之, 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
224. Genipin誘導体の神経突起誘導活性と構造活性相関, 鈴木 宏一, 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
225. ヒト脳微小血管内皮細胞層に対するメチル水銀の毒性発現, 廣岡 孝志, 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
226. 動脈硬化の抑止に有用な活性を有する硫酸化多糖類および有機金属化合物, 山本 千夏, 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
227. β -Amyloid proteinによる細胞障害における漢方複合剤の制御効果, 劉 園英, 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
228. ヒトCYP3A 分子種に対する主要カンナビノイドの阻害作用, 山折 大 (共同研究者: 渡辺 和人), 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
229. ヒト脳微小血管周皮細胞に対するメチル水銀の細胞密度依存的な傷害性, 廣岡 孝志, 藤原 泰之*, 南 有香, 山本 千夏, 新開 泰弘, 安武 章**, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (*愛知学院大・薬, **国立水俣研)
230. 血管内皮細胞における鉛に対する小胞体ストレス応答とそれに伴うNrf2の活性化, 新開 泰弘, 岩崎 奈津美, 山本 千夏, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3)
231. トロンボスポンジン-1による血管内皮細胞プロテオグリカン代謝の細胞密度依存的な調節, 寺田 奈緒子, 山本 千夏, 藤原 泰之*, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第128年

- 会，横浜（2008.3）（*愛知学院大・薬）
232. メチル水銀はヒト脳微小血管周皮細胞においてシンデカン-4の発現を誘導する，田中 満崇，廣岡 孝志，藤原 泰之*，井上 頌子，山本 千夏，新開 泰弘，安武 章**，鍛冶 利幸，日本薬学会第128年会，横浜（2008.3）（*愛知学院大・薬，**国立水俣研）
233. 増殖期の血管内皮細胞プロテオグリカン合成に対する亜鉛の影響，藤原 泰之*，山本 千夏，佐藤 雅彦*，鍛冶 利幸，日本薬学会第128年会，横浜（2008.3）（*愛知学院大・薬）
234. ラット精巣 3β -hydroxysteroid dehydrogenase/ Δ^5 - Δ^4 isomerase に対するカンナビノイドの阻害作用，三澤 宏一郎，舟橋 達也*，竹田 修三，山折 大，木村 敏行，渡辺 和人，山本 郁男**，日本薬学会第128年会，横浜（2008.3）（*松山大・薬，**九州保福大・薬）
235. ヒトCYP1分子種の酵素活性に対する主要カンナビノイドの阻害作用，串原 美佳，山折 大，木村 敏行，山本 郁男*，渡辺 和人，日本薬学会第128年会，横浜（2008.3）（*九州保福大・薬）
236. 分子モデリングによるカンナビノイドとCYP1A1, 1A2および1B1との相互作用の研究，増田 和文*，山折 大，串原 美佳，成松 鎮雄*，渡辺 和人，勝 孝*，日本薬学会第128年会，横浜（2008.3）（*岡山大院・医歯薬）
237. カルボキシエステラーゼによる局所麻酔薬の加水分解におけるアルコール体の影響，井本 真澄*，宇佐見 則行*，山本 郁男*，渡辺 和人，日本薬学会第128年会，横浜（2008.3）（*九州保福大・薬）
238. シトクロムP450 3A4とUDP-グルクロン酸転移酵素1Aサブファミリーとの機能的相互作用，追崎 俊也*，石井 佑次*，竹田 修三，西村 嘉雄*，田浦 太志*，森元 聡*，生城 真一**，Peter I. Mackenzie***，永田 清****，山添 康****，山田 英之*，日本薬学会第128年会，横浜（2008.3）（*九大院・薬，**富山大・工，***フリンダース大・医，****東北薬科大・薬，*****東北大院・薬）
239. 粉防已成分の細胞増殖抑制効果，野村 政明，高橋 純子，高橋 達雄，高屋 牧子，森谷 修三*，古林 伸二郎，日本薬学会第128年会，横浜，（2008.3）（*福井大・看護）

240. 粉防已成分tetrandrineの骨粗鬆症治療効果, 高橋 達雄, 利波 佑介, 野村 政明, 古林 伸二郎, 日本薬学会第128年会, 横浜, (2008.3)
241. ストレプトゾトシン糖尿病マウスの血糖降下に対する粉防已成分Fangchinolineと黄耆成分の複合作用機序, Ma Wenjie, 鈴木 智子, 野村 政明, 高橋 達雄, 古林 伸二郎, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3)
242. ヒト子宮頸癌Hela細胞に対する23-hydroxyursoric acidのアポトーシス誘導作用機序, 高屋 牧子, 近藤 洋子, 野村 政明, 高橋 達雄, Lee Kyung-Tae*, 古林 伸二郎, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (*慶熙大・薬)
243. TNF- α による脈絡膜血管新生亢進作用に対する粉防已成分tetrandrineの抑制作用機序, 菊池 穂, 石原 章奈, 遠藤 園子, 野村 政明, 高橋 達雄, 古林 伸二郎, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3)
244. カバノアナタケから抽出したトリテルペンの抗腫瘍活性作用, 上杉 愛美, 野村 政明, 高橋 達雄, 田中 麗子*, 古林 伸二郎, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (*大阪薬科大)
245. N^c- (carboxymethyl) lysineの脈絡膜血管新生亢進作用機序の検討, 石原 章奈, 菊池 穂, 野村 政明, 高橋 達雄, 永井 竜児*, 古林 伸二郎, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (*熊本大・医)
246. 神経栄養因子作用物質, ゲニピンの安定誘導体: 1-isopropoxygenipinの光学異性体と活性との関連, 鈴木 宏一, 山崎 眞津美, 具志堅 早美, 千葉 賢三, 澤西 啓之, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3)
247. 神経保護様作用物質ゲニピンの小胞体ストレスに対する作用, 田中 聖之, 山崎 眞津美, 千葉 賢三, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3)
248. Raf-1 を介したgenipinの突起伸展作用, 山崎 眞津美, 千葉 賢三, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3)
249. 5 価有機アンチモン化合物を利用した菌頭型カップリング反応, 王 軒, 安池 修之, 秦 薇薇, 川幡 正俊*, 山口 健太郎*, 栗田 城治, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (*徳島文理大香川・薬)

250. トリ及びテトラアリアルアンチモンカルボキシラート類を用いたUllmann型N-アリアル化反応, 秦 薇薇, 角澤 直紀, 安池 修之, 栗田 城治, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3)
251. トリフェニルスチバンからフェニルホウ酸誘導体への金属交換の反応機構に関する理論研究, 中田 和秀*, 安池 修之, 秦 薇薇, 鍛冶 利幸, 栗田 城治, 日本化学会第88春季年会, 東京 (2008.3) (*法大・自然セ)
252. アディポネクチンによる血管平滑筋細胞デコリン合成の誘導, 山本 千夏, 浦野 晶子, 鍛冶 利幸, 第78回日本衛生学会総会, 熊本 (2008.3)
253. 鉛による血管内皮細胞の増殖阻害とその機序について, 藤原 泰之*, 山本 千夏, 佐藤 雅彦*, 鍛冶 利幸, 第78回日本衛生学会総会, 熊本 (2008.3) (*愛知学院大・薬)
254. 周生期脳障害における神経幹細胞を用いた新規治療法の基礎研究, 伊田 みちる***, 時田 義人**, 中西 圭子**, 松井 ふみ子**, 青野 幸子**, 藤田 寛***, 藤原 泰之****, 鍛冶 利幸, 加藤 昌志*, 大平 敦彦**, 第78回日本衛生学会総会, 熊本 (2008.3) (*中部大, **愛知コロニー研, ***生化学工業, ****愛知学院大・薬)
255. バイオオルガノメタリクスの夜明け, 鍛冶 利幸, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング—機能性有機金属の創製とその生体機能解析, 毒性及び創薬研究への統合的応用—, 長浜 (2008.4)
256. アンチモンを中心とする典型重元素化合物の創製と機能, 安池 修之, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング—機能性有機金属の創製とその生体機能解析, 毒性及び創薬研究への統合的応用—, 長浜 (2008.4)
257. 分子モデリングによるカンナビノイドとヒトCYP分子種の相互作用解析, 増田 和文*, 山折 大, 串原 美佳, 勝 孝**, 成松 鎮雄**, 渡辺 和人, モレキュラー・キラリティー2008, 岡山 (2008.5) (*就実大・薬, **岡山大院・医歯薬)
258. NOによる TrkA非依存的な神経突起伸展, 山崎 眞津美, 千葉 賢三, 第8回日本NO学会学術集会, 仙台 (2008.5)
259. Genipin および 1-AlkyloxygenipinのnNOS-Tetrahydrobiopterin結合領域での相互作用の可能性, 鈴木 宏一, 山崎 眞津美, 千葉 賢三, 澤西 啓之, 第8回日本NO

学会学術集会, 仙台 (2008.5)

260. 14-Sb-7 型超原子価有機アンチモン化合物の構造解析と園頭型反応への応用, 安池 修之, 王 軒, 川幡 正俊*, 秦 薇薇, 角澤 直紀, 山口 健太郎*, 栗田 城治, 第75回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会・第77回計測自動制御学会力学量計測部会の第25回合同シンポジウム, 金沢 (2008.5) (*徳島文理大香川・薬)
261. 血管内皮細胞においてヘパラン硫酸プロテオグリカンの大型分子種パルカンの合成を選択的に誘導する有機アンチモン化合物, 山本 千夏, 小西 智子, 秦 薇薇, 角澤 直紀, 安池 修之, 栗田 城治, 鍛冶 利幸, 第75回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会・第77回計測自動制御学会力学量計測部会の第25回合同シンポジウム, 金沢 (2008.5)
262. 重金属の毒性を担う分子標的とその解明研究をめぐる新しい展開, 鍛冶 利幸, 徳島文理大学特別講演会, 徳島 (2008.5)
263. β -Amyloid proteinによる神経細胞死に対する抑肝散の制御効果, 劉 園英, 李 代偉, 第59回日本東洋医学会学術総会, 仙台 (2008.6)
264. Δ^9 -テトラヒドロカンナビノール, カンナビジオール及びカンナビノールによるヒトCYP1酵素の代謝依存的阻害の解析, 山折 大, 串原 美佳, 木村 敏行, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本法中毒学会第27年会, 東京 (2008.6) (*九州保福大・薬)
265. カンナビジオール酸, 大麻草中の選択的シクロオキシゲナーゼ-2 活性阻害成分, 竹田 修三, 三澤 宏一郎, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本法中毒学会第27年会, 東京 (2008.6) (*九州保福大・薬)
266. エステル型薬毒物の加水分解反応に及ぼすアルコール体の影響, 井本 真澄*, 宇佐見 則行*, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本法中毒学会第27年会, 東京 (2008.6) (*九州保福大・薬)
267. 血管内皮細胞のプロテオグリカン合成を調節するアンチモン含有分子プローブの探索, 山本 千夏, 小西 智子, 角澤 直紀, 安池 修之, 栗田 城治, 鍛冶 利幸, 第9回Pharmaco-Hematologyシンポジウム, 東京 (2008.6)
268. カドミウムの毒性防御の細胞応答システムを担う転写因子Nrf2, 新開 泰弘, 山本 千夏, 熊谷 嘉人*, 山本 雅之**, 鍛冶 利幸, 第35回日本トキシコロジー学会学

術年会, 東京 (2008.6) (*筑波大院・人間総合科学, **東北大院・医)

269. 有機ビスマス化合物tris[2-(N,N-dimethylaminomethyl) phenyl]-bismuthane (TDPB_I) は血管内皮細胞に対して選択的に細胞毒性を発現する, 藤原 泰之*, 深谷 允, 山本 千夏, 安池 修之, 栗田 城治, 佐藤 雅彦*, 鍛冶 利幸, 第35回日本トキシコロジー学会学術年会, 東京 (2008.6) (*愛知学院大・薬)
270. Action mechanism of Δ^9 -tetrahydrocannabinol to potentiate barbiturate- or benzodiazepine-induced sleep in mice, Toshiyuki Kimura, Satoshi Yamaori, Noriyuki Usami*, Ikuo Yamamoto*, Kazuhito Watanabe, ICRS2008, Aviemore, Scotland (2008.7) (*九州保福大・薬)
271. Selectivity of major cannabinoids toward inhibition of human CYP3A isoforms, Satoshi Yamaori, Jyuri Ebisawa, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto*, Kazuhito Watanabe, MDO2008, Saratoga Springs, U.S.A. (2008.7) (*九州保福大・薬)
272. Reduction of nitroarenes to azoxyarenes with *Sb*-aryl-1,5-azastibocine/benzoin system, Jyoji Kurita, Yoshiyuki Sugawara, Naoki Kakusawa, Shuji Yasuike, 23th International Conference on Organometallic Chemistry, Rennes, France (2008.7)
273. Cu-mediated Ullmann-type N-arylation by use of acetoxytetraarylstiboranes, Weiwei Qin, Yichen Wu, Naoki Kakusawa, Jyoji Kurita, 23th International Conference on Organometallic Chemistry, Rennes, France (2008.7)
274. The protective effect of YOCU-CAN-SAN (TJ54) on β -Amyloid protein-induced apoptosis in PC12 cells, Yuan Ying Liu, Daiwei Li, Alzheimer's Association International Conference on Alzheimer's Disease, Chicago (2008.7)
275. メチル水銀の部位特異的神経毒性発現機構としての血管毒性, 廣岡 孝志, 第27回チョークトーク水俣「生体と金属・化学物質に関する研究会」, 水俣 (2008.8)
276. カドミウムに対する血管内皮細胞の防御応答を担うNrf2/Keap1システム, 新開 泰弘, 第27回チョークトーク水俣「生体と金属・化学物質に関する研究会」, 水俣 (2008.8)
277. 難治性皮膚炎 (アトピー性皮膚炎) 治療に対する温清飲合十味敗毒湯の臨床応用,

劉 園英, 竹村 修*, 第8回日本臨床中医学学会学術大会, 埼玉 (2008.9) (*金沢映寿会みらい病院)

278. 未病における漢方の役割－牛黄清心元の活かし方, 劉 園英, 第27回近畿連合清心会大会, 京都 (2008.9)
279. インドール・ベンゾフラン誘導体の構造と分光学的性質におけるヘテロ原子置換の効果, 村中 厚哉*, 安池 修之, 劉 青原, 栗田 城治, 小林 長夫**, 吉田 健吾*, 内山 真伸*, 第19回基礎有機化学討論会, 大阪 (2008.10) (*理研, **東北大・理)
280. 血管内皮細胞に対するカドミウムの細胞毒性を担うメカニズムとしてのFGF-2システム, 宮内 靖世, 山本 千夏, 新開 泰弘, 廣岡 孝志, 鍛冶 利幸, フォーラム2008: 衛生薬学・環境トキシコロジー, 熊本 (2008.10)
281. メチル水銀投与ラット脳の病理組織学的変化: 小脳障害のメカニズムに関する新しい仮説, 杜 可, 山本 千夏, 廣岡 孝志, 安武 章*, 勝田 省吾**, 鍛冶 利幸, フォーラム2008: 衛生薬学・環境トキシコロジー, 熊本 (2008.10) (*国立水俣研, **金沢医大)
282. VEGFの自己分泌/傍分泌型調節システムは脳微小血管組織におけるメチル水銀毒性の標的である, 廣岡 孝志, 山本 千夏, 石井 明彦, 石郷岡 美緒, 新開 泰弘, 安武 章*, 鍛冶 利幸, フォーラム2008: 衛生薬学・環境トキシコロジー, 熊本 (2008.10) (*国立水俣研)
283. 血管内皮細胞においてカドミウムの毒性に対する防御機構を担うNrf2/Keap1系, 新開 泰弘, 板垣 礼香, 木村 朋紀*, 山本 千夏, 熊谷 嘉人**, 山本 雅之***, 鍛冶 利幸, フォーラム2008: 衛生薬学・環境トキシコロジー, 熊本 (2008.10) (*摂南大・薬, **筑波大院・人間総合科学, ***東北大院・医)
284. Δ^9 -テトラヒドロカンナビノールによるMCF-7細胞増殖の細胞内エストロジェン産生系による調節, 竹田 修三, 山本 郁男*, 渡辺 和人, フォーラム2008: 衛生薬学・環境トキシコロジー, 熊本 (2008.10) (*九州保福大・薬)
285. 日向夏のCaco-2細胞におけるエステラーゼ活性の阻害作用, 井本 真澄*, 宇佐見 則行*, 山本 郁男*, 細井 信造*, 佐久嶋 明世*, 渡辺 和人, 第23回日本薬物動態学会年会, 熊本 (2008.10) (*九州保福大・薬)

286. 銅触媒および塩基を必要としない有機アンチモン（V）化合物を利用した効率的
菌頭型反応, 安池 修之, 王 軒, 秦 薇薇, 川幡 正俊*, 角澤 直紀, 山口 健太
郎*, 栗田 城治, 第34回反応と合成の進歩シンポジウム, 京都 (2008. 11) (*徳島
文理大香川・薬)
287. 環境と健康－健康を脅かす環境問題, 鍛冶 利幸, 北國生きがい支援事業北陸大学
プログラム「長寿県いしかわを目指して」～21世紀の健康と医療～第2回フォー
ラム, 金沢 (2008.11)
288. NOによるRaf-1を介したTrkA 非依存的な神経突起伸展, 山崎 眞津美, 千葉 賢三,
第81回日本生化学会大会, 神戸 (2008.12)
289. 銅触媒を用いたテトラアリアルアンチモンアセテート類によるインドール類のN-
アリアル化反応, 秦 薇薇, 角澤 直紀, 安池 修之, 栗田 城治, 第35回有機典型元
素化学討論会, 京都 (2008. 12)
290. シトクロムP450 3A4とUDP-グルクロン酸転移酵素の機能的相互作用: UGT分子
種特異性, 岩本 有樹*, 追崎 俊也*, Arief Nurrochmad*, 竹田 修三, 西村 嘉
雄*, 生城 真一**, 田浦 太志*, 森元 聡*, 永田 清***, 山添 康****, Peter
I. Mackenzie*****, 石井 祐次*, 山田 英之*, 第25回日本薬学会九州支部大会,
宮崎 (2008.12) (*九大院・薬, **富山大・工, ***東北薬科大・薬, ****東北
大院・薬, *****フリンダース大・医)
291. The Nrf2/Keap1 system as a defense mechanism against cadmium toxicity in
vascular endothelial cells, Yasuhiro Shinkai, Ayaka Itagaki, Tomoki Kimura*,
Chika Yamamoto, Yoshito Kumagai**, Masayuki Yamamoto***, Toshiyuki
Kaji, 国際シンポジウム"Molecular Mechanism of Environmental Response to
Food and Oxygen III", 仙台 (2009.2) (*摂南大・薬, **筑波大院・人間総合科
学, ***東北大院・医)
292. Structure-activity relationships of genipin derivatives for neurite outgrowth
activities, 鈴木 宏一, 3大学合同シンポジウム「現代薬学研究及び教育」, 瀋陽
(2009.2)
293. バイオオルガノメタリクスの研究戦略, 鍛冶 利幸, 北陸大学学術フロンティア・
サテライトミーティング「バイオオルガノメタリクス: 有機金属化合物・錯体分
子のバイオロジー」, 神戸 (2009.2)

294. 光学活性有機アンチモン化合物の創製と不斉配位子能, 安池 修之, 平成20年度年次研究集会「生命科学・物質科学を拓くケミストリー」, 金沢 (2009.3)
295. Genipin誘導体の神経突起誘導作用に関する構造活性相関, 鈴木 宏一, 平成20年度年次研究集会「生命科学・物質科学を拓くケミストリー」, 金沢 (2009.3)
296. 血管内皮細胞においてカドミウムに対する毒性防御機構を担うNrf2/Keap1システム, 新開 泰弘, 平成20年度年次研究集会「生命科学・物質科学を拓くケミストリー」, 金沢 (2009.3)
297. $A\beta$ -40によって誘発される酸化ストレス障害に対する抑肝散の防護効果, 劉 園英, 平成20年度年次研究集会「生命科学・物質科学を拓くケミストリー」, 金沢 (2009.3)
298. トロンボスポンジン-1による血管内皮細胞プロテオグリカンの代謝調節, 山本 千夏, 平成20年度年次研究集会「生命科学・物質科学を拓くケミストリー」, 金沢 (2009.3)
299. ストレプトゾトシン糖尿病マウスの血糖降下に対する粉防已成分fangchinolineの効果と黄耆成分formononetinの複合作用, 野村 政明 (共同研究者: 古林 伸二郎), 平成20年度年次研究集会「生命科学・物質科学を拓くケミストリー」, 金沢 (2009.3)
300. Genipinの神経栄養因子作用: Neuro2a 細胞に対する遺伝子発現調節の網羅的解析, 千葉 賢三, 平成20年度年次研究集会「生命科学・物質科学を拓くケミストリー」, 金沢 (2009.3)
301. 大麻草成分, カンナビジオールをリード化合物とした選択的15-リボキシゲナーゼ阻害薬の創製, 竹田 修三, 平成20年度年次研究集会「生命科学・物質科学を拓くケミストリー」, 金沢 (2009.3)
302. ユビキタス元素を用いる錯体化学, 合成化学, 物質科学, 内山 真伸 (理研), 平成20年度年次研究集会「生命科学・物質科学を拓くケミストリー」特別講演, 金沢 (2009.3)
303. アルミニウムアート塩基の設計と機能, 中 寛史 (名大物国セ), 平成20年度年次研究集会「生命科学・物質科学を拓くケミストリー」, 金沢 (2009.3)

304. 鉄輸送システムに及ぼすカドミウム妊娠期曝露の影響, 藤原 泰之 (愛知学院大・薬), 平成20年度年次研究集会「生命科学・物質科学を拓くケミストリー」, 金沢 (2009.3)
305. 無機水銀の神経毒性作用に関する研究, 安武 章 (国立水俣研), 平成20年度年次研究集会「生命科学・物質科学を拓くケミストリー」, 金沢 (2009.3)
306. 無機ヒ素感受性関連遺伝子群解明への細胞機能遺伝学的アプローチ, 信國 好俊 (広島大原医研), 平成20年度年次研究集会「生命科学・物質科学を拓くケミストリー」特別講演, 金沢 (2009.3)
307. メチル水銀の部位特異的な中枢神経障害発現要因としての血管毒性, 廣岡 孝志, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第129年会シンポジウム: 若手が切り開くMolecular Toxicology 4~有害金属類の毒性発現と防御を担う分子標的と生体応答システム~, 京都 (2009.3)
308. FGF-2システムは血管内皮細胞に対するカドミウムの細胞毒性を担うメカニズムである, 山本 千夏, 宮内 靖世, 新開 泰弘, 廣岡 孝志, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
309. 鉛に曝露した血管内皮細胞におけるPERK経路を介したNrf2の活性化と毒性防御, 新開 泰弘, 岩崎 奈津美, 山本 千夏, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
310. メチル水銀中毒ラットの小脳顆粒細胞層における炎症性変化を伴った退行性変化, 杜 可, 廣岡 孝志, 山本 千夏, 安武 章*, 勝田 省吾**, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3) (*国立水俣研, **金沢医大)
311. カンナビジオール誘導体, カンナビジオール-2',6'-ジメチルエーテル: 選択的かつ強力な15-リボキシゲナーゼ阻害剤, 竹田 修三, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3) (*九州保福大・薬)
312. 11-ヒドロキシ- Δ^8 -テトラヒドロカンナビノールのCYP2C9による代謝反応における重水素同位体効果および立体選択性, 中原 亨, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3) (*九州保福大・薬)
313. 日向夏成分のエステラーゼ阻害作用とその阻害物質の探索, 井本 真澄*, 宇佐見

則行*, 山本 郁男*, 細井 信造*, 佐久嶋 明世*, 渡辺 和人, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3) (*九州保福大・薬)

314. カンナビノイドによるヒトCYP1A1, -1A2および -1B1のEROD活性阻害機構の分子モデリング, 増田 和文*, 山折 大, 串原 美佳, 勝 孝**, 成松 鎮雄**, 渡辺 和人, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3) (*就実大・薬, **岡山大院・医歯薬)
315. 脂肪細胞のグルコースの取り込みにおける粉防已成分Fangchinolineと黄耆成分Formononetinの効果, 王 佳虹, Ma Wenjie, 野村 政明, 高橋 達雄, 古林 伸二郎, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
316. 低接着プレートにおけるマウス上皮細胞C141細胞の増殖機構の検討, 板谷 友里恵, 百瀬 公博, 西尾 千尋, 野村 政明, 高橋 達雄, 古林 伸二郎, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
317. ゲニピンの神経栄養因子様作用: Neuro2a 細胞に対する遺伝子発現調節, 千葉 賢三, 山崎 眞津美, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
318. 神経栄養因子様活性を有するGenipin誘導体の構造活性相関 (1), 山崎 眞津美, 鈴木 宏一, 長尾 亮太, 千葉 賢三, 澤西 啓之, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
319. 神経栄養因子様活性を有するGenipin誘導体の構造活性相関 (2), 鈴木 宏一, 山崎 眞津美, 長尾 亮太, 千葉 賢三, 澤西 啓之, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
320. トリアリールビスマス類を利用した銅触媒下での非対称チオエーテル類の合成, 西岡 元一, 安池 修之, 栗田 城治, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
321. 5 価有機アンチモン化合物を利用したPd触媒下のホウ素—アリール化反応, 董 宇強, 秦 薇薇, 角澤 直紀, 安池 修之, 栗田 城治, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
322. テトラアリールアンチモンアセテート類を用いたアゾール類のUllmann型N-アリール化反応, 秦 薇薇, 角澤 直紀, 安池 修之, 栗田 城治, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)

323. Pb触媒下の1, 5-アザスチボシンとアリル化合物とのカップリング反応, 角澤 直紀, 安池 修之, 栗田 城治, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
324. Genipin の神経突起誘導作用における神経型一酸化窒素合成酵素の役割, 山崎 眞津美, 千葉 賢三, 居原 秀*, 第9回日本 NO 学会学術集会, 静岡 (2009.5) (*大阪府立大・理)
325. An organoantimony compound that selectively induces perlecan synthesis in vascular endothelial cells, Chika Yamamoto, Tomoko Konishi, Naoki Kakusawa, Shuji Yasuike, Jyoji Kurita, Toshiyuki Kaji, 第19回金属の関与する生体関連反応シンポジウム, 大阪 (2009.6)
326. Role of aquaporin 9 in cellular accumulation of arsenic and its cytotoxicity in primary mouse hepatocytes, Daigo Sumi^{*,**}, Yasuhiro Shinkai, Takashi Toyama^{*}, Toshiyuki Kaji, Yoshito Kumagai^{*}, 第19回金属の関与する生体関連反応シンポジウム, 大阪 (2009.6) (*筑波大院・人間総合科学, **徳島文理大・薬)
327. 脳ミクロソームCYPによるテトラヒドロカンナビノールの代謝, 藤波 舞, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本法中毒学会第28年会, 金沢 (2009.6) (*九州保福大・薬)
328. ヒトCYP19による主要大麻成分の代謝, 宇佐見 則行*, 井本 真澄*, 岸 信行*, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本法中毒学会第28年会, 金沢 (2009.6) (*九州保福大・薬)
329. β -Amyloid protein (β -40) による細胞障害における漢方複合剤の制御効果, 劉 園英, 李 代偉, 第60回日本東洋医学会総会, 東京 (2009.6)
330. 空気雰囲気下で行うトリアリールアンチモンジアセテートを用いた宮浦ホウ素化型反応, 董 宇強, 安池 修之, 秦 薇薇, 角澤 直紀, 栗田 城治, 日本薬学会北陸支部第120回例会, 金沢 (2009.7)
331. トリフェニルビスマスとジスルフィド類を利用した銅触媒下でのS-アリール化反応, 西岡 元一, 安池 修之, 栗田 城治, 日本薬学会北陸支部第120回例会, 金沢 (2009.7)
332. A copper- and base-free sonogashira-type cross-coupling reaction of triarylantimony dicarboxylates with alkynes under an aerobic condition, Shuji

Yasuike, Xuan Wang, Weiwei Qin, Naoki Kakusawa, Jyoji Kurita, 15th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 15), Glasgow, Scotland (2009.7)

333. Reaction mechanism for the LiCl-Promoted directed Zinc insertion: A comprehensive computational and experimental study, Ching-Yuan Liu, Xuan Wang*, Taniyuki Furuyama*, Atsuya Muranaka*, Shuji Yasuike, Jyoji Kurita, Keiji Morokuma**, Masanobu Uchiyama*, 15th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 15), Glasgow, Scotland (2009.7) (*理研, **エモリー大)
334. メチル水銀による小脳障害のメカニズムに関する新しい仮説, 廣岡 孝志, 杜 可, 山本 千夏, 安武 章*, 衛藤 光明*, 勝田 省吾**, 鍛冶 利幸, 第36回日本トキシコロジー学会学術年会, 盛岡 (2009.7) (*国立水俣研, **金沢医大)
335. シロスタゾール前処理におけるカドミウムおよび亜ヒ酸の細胞毒性の軽減, 藤原 泰之*, 北川 貴大*, 鍛冶 利幸, 佐藤 雅彦*, 第36回日本トキシコロジー学会学術年会, 盛岡 (2009.7) (*愛知学院大・薬)
336. 環境と健康「環境と健康の接点」, 鍛冶 利幸, 北陸大学 DANTOTSU 薬立・健康セミナー2009 in TOYAMA 「治療から養生へ～薬都とやまへの提言」第2回講演会, 富山 (2009.7)
337. The protective effect of YOCU-CAN-SAN (TJ54) on β -Amyloid protein-induced apoptosis in PC12 cells, Yuan Ying Liu, ICAD2009, Vienna (2009.7)
338. Neurotrophic factor-like activity of genipin, 千葉 賢三, 山崎 眞津美, 第8回3大学合同シンポジウム, 金沢 (2009.8)
339. 5価有機アンチモン化合物を擬ハロゲン化物に用いた空気雰囲気下で行う宮浦ホウ素化型反応, 董 宇強, 安池 修之, 秦 薇薇, 角澤 直紀, 栗田 城治, 平成21年度有機合成北陸セミナー, 富山 (2009.10)
340. 非対称チオエーテル類の合成: 銅触媒を用いたトリアリールビスマス類とジスルフィド類とのクロスカップリング反応, 西岡 元一, 安池 修之, 角澤 直紀, 栗田 城治, 平成21年度有機合成北陸セミナー, 富山 (2009.10)

341. 血管構成細胞におけるシロスタゾールによるメタロチオネイン誘導と血管保護作用, 藤原 泰之*, 坂野 博紀*, 鍛冶 利幸, 佐藤 雅彦*, メタロチオネインおよびメタルバイオサイエンス研究会2009, 東京 (2009.10) (*愛知学院大・薬)
342. Tonic Agent, Bu-Ji, Modulates distribution of lymphocyte subsets and its implicated for use against type of infectious agents in humans and rodents, Nobuo Yamaguchi*, kumiko Uchikawa**, Gao Ming***, Yuan-ying Liu, Takashi Takahashi****, The Organizing Committee of 2009 International Conference on TCM Classics and Clinic, Hangzhou, China (2009.10) (*金沢医大, **, ***武庫川女子大, ****北里大)
343. バイオオルガノメタリクスー有機金属化学・錯体化学の新しい展開ー, 内山 真伸*, 木村 朋紀**, 藤原 泰之***, 安池 修之, 山本 千夏, 佐藤 雅彦***, 鍛冶 利幸, 第82回生化学会大会, 神戸 (2009.10) (*理研, **摂南大・薬, ***愛知学院大・薬)
344. 脳特異的プロテアーゼMT5-MMP によるニューログリカンC の細胞外領域切り出し機構の解析, 周尾 卓也*, 越川 直彦*, 星野 大輔*, 小西 知江子*, 青野 幸子**, 鍛冶 利幸, 大平 敦彦***, 清木 元治*, 第82回生化学会大会, 神戸 (2009.10) (*東大, **愛知県コロニー研, ***愛知医大・先端医)
345. Genipin 誘導体の神経栄養因子活性と構造活性相関, 鈴木 宏一, 山崎 眞津美, 千葉賢三, 澤西 啓之, 第28回メディシナルケミストリーシンポジウム, 東京 (2009.11)
346. 銅触媒下のトリアリールビスマスを用いたジスルフィド類のS-アリアル化反応, 西岡 元一, 安池 修之, 角澤 直紀, 栗田 城治, 第35回反応と合成の進歩シンポジウム, 金沢 (2009.11)
347. 血管内皮細胞においてカドミウムの毒性防御機構を担う転写因子Nrfl, 新開 泰弘, 山本 千夏, 熊谷 嘉人*, 鍛冶 利幸, フォーラム2009衛生薬学・環境トキシコロジー, 沖縄 (2009.11) (*筑波大院・人間総合科学)
348. メチル水銀は培養ヒト脳微小血管内皮細胞および周皮細胞のヒアルロン酸合成を促進する, 廣岡 孝志, 山本 千夏, 安武 章*, 衛藤 光明*, 鍛冶 利幸, フォーラム2009衛生薬学・環境トキシコロジー, 沖縄 (2009.11) (*国立水俣研)

349. Effects of Congolese herbal medicines on sickle erythrocyte morphology and normal blood coagulation, Marie Miezi Nsimba, José Nzunzu Lami*, Yumiko Hayakawa**, Olga K. Batanga*, Chika Yamamoto, Toshiyuki Kaji, フォーラム2009衛生薬学・環境トキシコロジー, 沖縄 (2009.11) (*Fac. Pharm. Sciences, Kinshasa Univ., **富山大・医)
350. 大麻主成分によるCYP2A6の阻害作用, 前田 千佳子, 山折 大, 山本 郁男*, 渡辺 和人, フォーラム2009衛生薬学・環境トキシコロジー, 沖縄 (2009.11) (*九州保福大・薬)
351. 大麻非幻覚成分カンナビジオールのCYP2D6阻害機構, 岡本 泰佳, 山折 大, 山本 郁男*, 渡辺 和人, フォーラム2009衛生薬学・環境トキシコロジー, 沖縄 (2009.11) (*九州保福大・薬)
352. 大麻非幻覚成分カンナビジオールによるヒトCYP1A発現誘導, 衣笠 裕香, 山折 大, 竹田 修三, 山本 郁男*, 渡辺 和人, フォーラム2009衛生薬学・環境トキシコロジー, 沖縄 (2009.11) (*九州保福大・薬)
353. 大麻主成分カンナビジオールのヒト肝ミクロソームによる代謝反応に関与するシトクロムP450分子種, 蔣 融融, 山折 大, 山本 郁男*, 渡辺 和人, フォーラム2009衛生薬学・環境トキシコロジー, 沖縄 (2009.11) (*九州保福大・薬)
354. 大麻主成分テトラヒドロカンナビノールによるプロポフォールの鎮静・催眠増強作用メカニズム, 木村 敏行, 宇佐見 則行*, 渡辺 和人, 山本 郁男*, フォーラム2009衛生薬学・環境トキシコロジー, 沖縄 (2009.11) (*九州保福大・薬)
355. Cannabidiol-2',6'-dimethylether, a potent and selective inhibitor for oxidized low-density lipoprotein-producing enzyme, Shuso Takeda*, Satomi Abe*, Kazuhito Watanabe, Hironori Aramaki*, 第3回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム, 福岡 (2009.11) (*第一薬大)
356. 動脈硬化症予防を目指した新規バイオプローブの開発：悪玉コレステロール生成酵素阻害に基づくアプローチ, 竹田 修三*, 阿部 紗都美*, 渡辺 和人, 荒牧 弘範*, 第8回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム2009, 名古屋 (2009.11) (*第一薬大)

357. $A\beta$ -40によって誘発される酸化ストレス障害に対する抑肝散の防護効果, 劉 園英, 李 代偉, 第12回日本補完代替医療学会学術集会, 高野山 (2009.11)
358. トリアリールビスムタンを利用した銅触媒下のS-アリール化反応, 西岡 元一, 安池 修之, 角澤 直紀, 栗田 城治, 第36回有機典型元素化学討論会, 鳥取, (2009.12)
359. ロジウム触媒によるトリアリールビスマスのエヘンへの1, 4-共役付加反応, 角澤 直紀, 安池 修之, 栗田 城治, 第36回有機典型元素化学討論会, 鳥取, (2009.12)
360. iPr-Genipinによる網膜神経節細胞RGC-5株の軸索伸長作用メカニズム, 高木 裕介*, 郡山 恵樹**, 千葉 賢三, 山崎 眞津美, 荒井 國三*, 加藤 聖**, 第56回中部日本生理学会, 金沢 (2009.12) (*金沢大院・薬, **金沢大院・医)
361. メチル水銀のヒト脳微小血管内皮細胞への傷害性発現は低酸素環境下において増強される, 姫 妹婷, 廣岡 孝志, 山本 千夏, 安武 章*, 衛藤 光明*, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第130年会, 岡山 (2010.3) (*国立水俣研)
362. メチル水銀は脳浮腫形成に関与する脳血管組織のVEGFシステムを活性化する, 廣岡 孝志, 新開 泰弘, 山本 千夏, 安武 章*, 衛藤 光明*, 鍛冶 利幸, 日本薬学会第130年会, 岡山 (2010.3) (*国立水俣研)
363. カンナビジオールのヒト肝ミクロソームによる主代謝物生成に関与するシトクロムP450分子種, 蔣 融融, 山折 大, 山本 郁男*, 渡辺 和人, 日本薬学会第130年会, 岡山 (2010.3) (*九州保福大・薬)
364. CYP19によるステロイド代謝に及ぼす大麻主成分(THC, CBD, CBN)の影響(その2), 山本 郁男*, 宇佐見 則行*, 井本 真澄**, 岸 信行*, 渡辺 和人, 日本薬学会第130年会, 岡山 (2010.3) (*九州保福大・薬, **第一薬大)
365. 15-リボキシゲナーゼ阻害作用を示す大麻主成分delta-9-THCとその代謝物, 竹田 修三*, 阿部 紗都美*, 荒牧 弘範*, 山本 郁男**, 渡辺 和人, 日本薬学会第130年会, 岡山 (2010.3) (*第一薬大, **九州保福大・薬)
366. ストレプトゾトシン誘発糖尿病マウスにおける山梔子およびその成分Geniposideの血糖下降作用, 于 青, 野村 政明, 王 佳虹, 高橋 達雄, 古林 伸二郎, 日本薬学会第130年会, 岡山 (2010.3)

367. N^c-(Carboxymethyl) lysineの脈絡膜血管新生亢進に対する粉防已成分Tetrandrineの抑制作用機序, 今井 淑恵, 高橋 達雄, 石原 章奈, 上村 秀昌, 野村 政明, 永井 竜児*, 古林 伸二郎, 日本薬学会第130年会, 岡山 (2010.3) (*日本女子大・食物学)
368. 低接着プレートを用いたTPAによるマウス表皮JB6Cl41細胞の増殖に関わる細胞内シグナル伝達, 板谷 友里恵, 野村 政明, 増田 千恵, 高橋 達雄, 武野 哲, 古林 伸二郎, 日本薬学会第130年会, 岡山 (2010.3)
369. 関節リウマチ治療効果増強を目指した可溶性RAGEの骨ターゲティング, 高橋 達雄, 勝田 さや香, 田村 佑輔, 長瀬 希美, 野村 政明, 武野 哲, 古林 伸二郎, 日本薬学会第130年会, 岡山 (2010.3)
370. 小細胞肺癌の腫瘍形成および血管新生亢進におけるbFGFの関与, 野村 政明, 王佳虹, 長田 直人*, 高橋 達雄, 宮本 謙一*, 古林 伸二郎, 日本薬学会第130年会, 岡山 (2010.3) (*金沢大・病院薬)
371. iPr-genipin の神経軸索伸長作用におけるRAR β の必要性, 高木 裕介*, 郡山 恵樹**, 千葉 賢三, 山崎 眞津美, 鈴木 宏一, 荒井 國三*, 加藤 聖**, 影近 弘之***, 日本薬学会第130年会, 岡山 (2010.3) (*金沢大院・薬, **金沢大院・医, ***東京医歯大院)
372. 15族元素から成る4環性ベンゾチエノ[3,2-b]ベンゾヘテロールの簡便合成法, 栗原 梨奈, 安池 修之, 吉田 健吾*, 村中 厚哉*, 内山 真伸*, 栗田 城治, 日本薬学会第130年会, 岡山 (2010.3) (*理研)
373. Pd触媒下の有機Sb(V)化合物を利用したヒドロホスホナート類のP-アリアル化反応, 安池 修之, 董 宇強, 王 軒, 角澤 直紀, 栗田 城治, 日本薬学会第130年会, 岡山 (2010.3)